

平成29年度 学校法人純美禮学園

事業報告及び決算概要報告について

◆ 沿革

I 法人の概要

II 学園の法人会議及び監査について

III 各部門の教育推進の概要

IV 決算概要説明

<付 表>

- ・ 資金収支計算書 (第1表)
- ・ 資金収支内訳表 (第2表)
- ・ 活動区分資金収支計算書 (第3表)
- ・ 事業活動収支計算書 (第4表)
- ・ 事業活動収支内訳表 (第5表)
- ・ 貸借対照表 (第6表)
- ・ 財産目録 (第7表)

V 監査報告書

- ・ 学園監事監査報告書

- ・ 公認会計士監査報告書

【参 考】

- ・ 「学生・生徒・園児数」(平成30年5月1日現在)

法人本部

◆ 沿革

年	月	事	項
大正 7 年	4 月	松村裁縫速進教授所開設	大津市北国町（現 三井寺町）
8 年	4 月	大津裁縫速進教授所と改称	
15 年	4 月	大津市蔵橋町（現 浜大津二丁目）へ教授所移転	
昭和 3 年	4 月	大津裁縫女学校開校	校長に中野富美就任
6 年	4 月	大津高等裁縫女学校に改組	同校専攻科卒業者に対し 小学校裁縫専科正教員無試験検定資格が、県知事から付与される
12 年	4 月	大津市梅林町に新築移転	
19 年	4 月	財団法人純美禮学園に改組	理事長に中野富美就任 滋賀高等女子実業学校と校名変更
23 年	4 月	学制改革に伴い新制高等学校に改組	大津家庭高等学校に校名変更
26 年	4 月	財団法人純美禮学園を学校法人純美禮学園に組織変更	理事長に中野富美就任
36 年	4 月	滋賀女子高等学校に校名変更	
37 年	12 月	滋賀女子高等学校	大津市朝日が丘に校舎新築
38 年	11 月	第二期工事	講堂兼体育館竣工
41 年	3 月	理事長に松村信蔵就任	
43 年	8 月	第三期工事竣工	梅林校舎を廃し朝日が丘に校舎統合
45 年	4 月	滋賀女子短期大学 開学	服飾学科、幼児教育学科の二学科設置 滋賀女子高等学校に普通科新設
47 年	10 月	滋賀女子高等学校	中野富美顕彰記念館竣工
49 年	5 月	滋賀女子短期大学	体育館竣工
51 年	4 月	理事長に原山淑夫就任	
55 年	4 月	滋賀女子短期大学附属幼稚園	開園
56 年	8 月	理事長に中野幹夫就任	
57 年	11 月	滋賀女子高等学校	普通科棟竣工（現 3 号館）
59 年	3 月	滋賀女子短期大学	音楽棟竣工（現 3 号館）
62 年	4 月	滋賀女子短期大学	秘書科新設
63 年	5 月	学園創立 70 周年記念式典挙行	
63 年	10 月	滋賀女子高等学校	第二体育館竣工

年	月	事	項
平成3年	3月	滋賀女子高等学校	普通科棟増築竣工（新館）
3年	4月	滋賀女子短期大学	服飾学科を生活学科に科名変更
6年	3月	滋賀女子短期大学	学舎増築（3号館）
9年	4月	滋賀女子高等学校	家政科を生活創造科に科名変更
11年	3月	滋賀女子高等学校	体育館建替竣工（第一体育館）
12年	4月	滋賀女子短期大学	秘書科をビジネスコミュニケーション学科に科名変更
15年	4月	滋賀女子短期大学	幼児教育学科を幼児教育保育学科に科名変更
16年	4月	理事長に松村文夫就任	
17年	4月	滋賀女子短期大学	生活学科に製菓衛生師養成校の指定を受ける
20年	4月	共学化に伴い学校名変更 滋賀女子短期大学を滋賀短期大学へ 滋賀女子高等学校を滋賀短期大学附属高等学校へ 滋賀女子短期大学附属幼稚園を滋賀短期大学附属幼稚園へ	
20年	5月	純美禮学園90周年記念式典挙行	
21年	3月	(財)短期大学基準協会における第三者評価の結果	適格と認定される
21年	3月	滋賀短期大学	生活学科に栄養士養成施設の指定を受ける
22年	1月	滋賀短期大学	生活学科に栄養教諭免許（2種）授与の課程認定を受ける
22年	4月	滋賀短期大学附属高等学校	生活創造科を人間総合科に科名変更
22年	11月	滋賀短期大学附属高等学校	2号館耐震工事完了
23年	10月	滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科	に日本医師会認定医療秘書養成校の認定を受ける
28年	3月	(財)短期大学基準協会における第三者評価の結果	適格と認定される

I 法人の概要

- ・ 設置する学校の概要（平成 29 年 5 月 1 日現在）

学 校 名	学 科	定 員		現 員	
		入学定員	総定員	入学数	総数
滋賀短期大学	生 活 学 科	80 人	160 人	73 人	147 人
	幼 児 教 育 保 育 学 科	170	340	158	302
	ビ ^ジ ネスコミュニケーション学科	100	200	90	150
	計	350	700	321	599
滋賀短大附属 高 等 学 校	普 通 科	200	600	183	552
	人 間 総 合 科	80	240	49	141
	計	280	840	232	693
滋賀短期大学 附 属 幼 稚 園	3 歳 ・ 4 歳 ・ 5 歳 児	60	170	55	161

- ・ 役員・教職員の概要（平成 29 年 5 月 1 日現在）

【役員】（理事 9 名 監事 2 名）

理事長	松村 文夫（常勤）	理 事	山田 義和（非勤）
理 事	佐藤 尚武（常勤）	理 事	馬場 章（非勤）
理 事	那須 文英（常勤）	理 事	中村 善郎（非勤）
理 事	小野 清司（常勤）		
理 事	井上 清久（常勤）	監 事	東 清信（非勤）
理 事	辻 雅代（常勤）	監 事	山中 隆（非勤）

【評議員】評議員 井上 清久 以下 19 名

【教職員の概要（非常勤外数）】（平成 29 年 5 月 1 日現在）

教 員 1 0 5 名（6 7 名） 職 員 3 2 名（1 4 名）

<内訳>

短期大学	教 員	3 1 名（6 3 名）	職 員	2 2 名（1 1 名）
高等学校	教 員	6 0 名（ 4 名）	職 員	4 名（ 2 名）
幼稚園	教 員	1 4 名	職 員	1 名
法人本部			職 員	5 名（ 1 名）

II 法人会議及び監査の実施状況

◇ 法人の会議等

<理事会・評議員会>

年 度	月 日	会議区分	議 題 等
平成29年	5月26日	理 事 会	1. 平成28年度事業報告について
			2. 平成28年度決算について
			3. 平成28年度監査報告について
			4. 附属高校の学則の一部改定について
			5. 個人情報の保護に関する規則の改定について
			6. 評議員の推薦について
			7. 評議員の選任について
5月26日	評議員会	1. 平成28年度事業報告について	
		2. 平成28年度決算について	
		3. 平成28年度監査報告について	
		4. 附属高校の科名変更に伴う「学園寄附行為」の一部変更について	
		5. 附属高校1号館建替えに伴う借入金について	
		6. 評議員の選任について	
5月26日	理 事 会	1. 附属高校1号館建替えに伴う借入金について	
		2. 附属高校の科名変更に伴う「学園寄附行為」の一部変更について	
9月14日	理 事 会	1. 短期大学学則の一部変更について	
		2. 学園100周年事業について(経過報告)	
		3. 平成28年度決算の財務分析について	
		4. 平成29年度資金運用中間報告について	
12月8日	評議員会	1. 平成29年度予算の補正について	
		2. 学長候補者選考委員会委員の選出について	
12月8日	理 事 会	1. 平成29年度予算の補正について	
		2. 職員給与規程の一部改定について	
		3. 学長候補者選考委員会委員の選出について	
平成30年	1月26日	評議員会	1. 学長候補者について
	1月26日	理 事 会	1. 学長予定者の選出について
	3月16日	評議員会	1. 平成30年度事業計画について
			2. 平成30年度予算について
			3. 平成30年度借入金について
			4. 短期大学幼児教育保育学科の入学定員の変更について
			5. 理事の選任について
			6. 評議員の選任について
	3月16日	理 事 会	1. 平成30年度事業計画について
			2. 平成30年度予算について
3. 平成30年度借入金について			
4. 短期大学幼児教育保育学科の入学定員の変更について			
3月16日	理 事 会	5. 短期大学学則の一部改正について	
		6. 短期大学教授会規程の一部改定について	
		7. 佐藤学長の辞任について	
		8. 秋山新学長の就任について	
		9. 理事の選任について	
		10. 評議員の選任について	

<常任理事会>

年度	月日	議題等
平成29年	5月1日	1. 附属高校における4学期制から3学期制への変更について
		2. 非常勤職員の雇用等に関する規程の一部変更について
		3. 当面の諸課題について
		(1) 職員(事務系)の目標管理による個人評価制度について
		(2) 各部門における諸課題について
		4. 附属高校校舎建設概要について ～学園創立100周年事業～
平成29年	6月23日	1. 附属高校の入学者における入学金の取扱いについて
		2. 平成29年度私立大学研究ブランディング事業申請概要について
	10月27日	1. 人事院勧告に基づく純美禮学園の給与改定について
平成30年	2月23日	1. 平成30年度予算編成方針について
		2. 平成30年度予算の概要について
		3. 短期大学委託訓練生学生規程の制定について

◇法人の監査等

年度	月日	内容等	
平成29年	4月5日	期首監査(公認会計士)	
	5月18日 19日	平成28年度会計決算監査	
		学園監事による公認会計士からの意見聴取	
	5月23日	学園監事監査	
	7月12日	学園監事による教学監査	
	7月19日	中間監査(公認会計士)	
	7月20日	滋賀県総務課による現地調査	
	9月20日	中間監査(公認会計士)	
	10月11日	滋賀県監査委員会による財政的予備調査	
	11月22日	中間監査(公認会計士)	
	11月27日	滋賀県監査委員会による財政的援助団体等の監査(書面監査)	
	平成30年	2月21日	中間監査(公認会計士)

Ⅲ 各部門の教育推進の概況

<短期大学>

1. 第4次中期目標・計画による教育研究の推進

平成29年度は、前年度末の点検・評価を踏まえて「第4次中期目標・計画(平成27年～平成29年度)ー平成29年度に向けての再策定ー」に取りまとめ、全学的な理解のもとに教育研究活動を推進した。

主な推進事項は次のとおり。

- 生活学科ライフデザインコースの募集停止(H30募集から停止)、幼児教育保育学科の募集定員変更(H31募集から:170名→150名)、ビジネスコミュニケーション学科のコース追加(H31募集から:観光・ホテル・ブライダルコース)
- 企画委員会への全学的研究推進部会の設置、研究ブランディング事業に関しての外部評価委員会の設置(国の私立大学研究ブランディング事業は不採択)、滋賀県内の幼稚園、保育園に勤務する保育者を対象とした研修講座の開催(2月24日(土)幼児教育保育学科アカデミー in SHIGATAN)。
- 守山市との教育研究活動を通して地域の活性化に寄与することを目的とした包括連携協定の締結。
- 入学試験の成績優秀者に対する「夢・未来人特待生」制度の新設(H30入学生:「プラチナ100」3人、「プラチナ50」4人)
- 滋賀県高等技術専門校(長期高度人材育成コース)訓練生の生活学科食健康コースへの受入れ受託(H30訓練生2名)

(1) 管理運営体制の整備等について

- ・重要事項については、毎月、法人本部と企画調整会議を開催し協議するとともに、企画委員会にある教学マネジメント部会において全学的な検討を行い、教育研究活動を推進した。
- ・授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組(FD)に関しては、前年度に引き続き授業評価アンケート及び相互授業参観を実施し授業改善に活かすとともに、学内研究会を、地域連携教育研究センターが3回、高等教育開発センターが3回開催した。
- ・教職員の能力開発・資質向上に関しては、短期大学設置基準が改正され、事務職員に限らず、すべての職員に研修の機会を設けるとされたことから、委員会規程を改正し、全教職員を対象としたSD研修会を3回開催した。また、新たにSD関連報告会を3回開催し、学外研修会やセミナーに参加した職員がその概要を報告した。

(2) 教育体制の充実に向けて

- ・生活学科では、ライフデザインコースの募集停止により、栄養士養成課程である食健康コースの募集定員を10名増員し45名とした。
- ・栄養教諭二種免許及び幼稚園免許二種免許については、教育職員免許法等の改正により、平成31年4月以降も引き続き教職課程を有するための課程認定(再課程認定)が必要となることから、その申請のため、生活学科及び幼児教育保育学科の教育課程を見直した。
- ・ビジネスコミュニケーション学科において、新たに医療秘書実務士資格と医事実務士資格の取得を可能とした。
- ・ラーニング・コモンズ(学習支援室)については、引き続き特任教員を配置し、基礎学習等、学生が学んでいく上で必要となる様々な支援を行った。
- ・共通科目の外国語科目(英語)については、入学時に行う基礎テスト(英語)の成績によ

りグレード別にクラスを編成した。また、平成 30 年度から、附属高校生が科目等履修生として学ぶ“すみれ基礎講座”を開設することとした。

- ・シラバスについては、国際化への対応として全ての科目に英文名を明記するとともに、オフィスアワーの時間帯を具体的に明記することを徹底した。
- ・学生の履修に関しては、決め細やかな履修指導・学習支援に資するよう、新たに「滋賀短期大学GPA制度に関する要綱」を制定するとともに、進路変更が行いやすいよう転科に関する規定を見直した。

(3) 学生支援体制の充実に向けて

- ・中途退学及び休学については、その理由をできるだけ早期に把握し、学生一人ひとりの状況に応じた適切な指導・対応に努めた。なお、次年度には、理由を把握・分析しやすいよう、休学・退学届けの様式を見直すこととした。
- ・就職支援としては、ハローワーク（大津と草津）の相談員が本学において週 2 回、直接、学生に就職指導を行う機会を設けるとともに、面接・試験などの選考解禁日に合わせたプログラムで「就職支援講座」を実施した。
- ・公務員試験に関しては、ビジネスコミュニケーション学科において履修科目として単位化した「公務員特講」を開設し、他学科の学生も受講可能とした結果、公務員就職者は 14 名（前年度：7 名）と増大した。
- ・編入試験については、大学編入対策ガイダンスを開催し、進路希望に応じて指導したが、4 年制大学へ進学した者は 1 名であった。
- ・キャンパス内の禁煙については、新入生及び新 2 回生のオリエンテーションにおいて周知徹底するとともに、前年度の取組を踏襲した継続的な禁煙指導により効果を上げることができた。

2. 課外活動の実施状況

(1) 学生団体の結成（平成 29 年 8 月 3 日現在）

- ・団体結成数 21 団体（前年度 22 団体）
- ・クラブ及びサークル加入者数 195 名（前年度 258 名）
加入率 32.7%（前年度 40.6%）

(2) 主な成績・活動結果

- ・第 52 回全国私立短期大学体育大会（8/7～8/10 の 4 日間）
 - バレーボール部女子 準優勝
 - バドミントン部女子 団体優勝、ダブルス優勝、シングルス優勝
 - バスケットボール部女子 ベスト 8
 - ソフトテニス部女子 団体優勝、ダブルス優勝・準優勝・3 位(2 ペア)
- ・バスケットボール部女子
 - 関西学生バスケットボールリーグ戦（3 部） 第 10 位
 - 滋賀県学生選手権大会 第 2 位
- ・バレーボール部女子
 - 関西大学バレーボール春季リーグ戦（3 部） 第 5 位
 - 関西大学バレーボール秋季リーグ戦（3 部） 第 3 位
 - 西日本インカレ 決勝トーナメント進出

- ・ソフトテニス部女子

関西学生ソフトテニス春季リーグ戦（2部）	第6位（3部降格）
関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦（3部）	優勝
京都学生ソフトテニス新進大会	ダブルス第3位、準優勝
滋賀県ソフトテニス秋季選手権大会	ダブルス優勝
滋賀県インドア選手権大会	ダブルス優勝
全日本学生ソフトテニス選手権大会	出場
- ・バドミントン部女子

京都学生バドミントンリーグ戦（1部）	第6位（2部降格）
関西学生バドミントン春季リーグ戦（2部）	第6位
関西学生バドミントン秋季リーグ戦（2部）	第4位
- ・2017 KDK ファッショングランプリコンテスト

織研新聞社賞	生活学科2回生1名
佳作	生活学科2回生3名、同学科1回生5名

3. 学生相談状況

- ・学生相談室来室者 延べ相談者 148名（前年度 160名）

4. 自己点検・評価活動の状況

- ・平成28年度自己点検・評価報告書を平成29年6月に刊行した。
- ・平成29年度自己点検・評価報告書を平成30年6月に刊行予定である。

5. 学生募集の状況

(1) 平成30年度入学試験受験状況

- ・志願者数 399名*（前年度 345名、前々年度 317名）
 - *<AO入試、推薦入試などの合格者の一般入試I期(夢・未来人特待生制度)志願者 83名含む>
- ・合格者数 395名‡（前年度 339名、前々年度 315名）
 - ‡<AO入試、推薦入試などの合格者の一般入試I期(夢・未来人特待生制度)合格者 83名含む>
- ・入学者数 293名<<内男子 30名>>

（前年度 321名<<内男子 26名>>、前々年度 293名<<内男子 29名>>）

(2) 夏のオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 4/29(日)生活学科のみ、5/14(日)製菓マイスターコースのみ、
5/28(日)、6/11(日)、6/25(日)、7/22(土)、7/23(日)、8/18(金)、8/19(土)
- ・参加者 延べ912名（前年度 778名、前々年度 767名）

(3) クリスマスオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 12/16(土) 参加者 76名（前年度 56名）

(4) バレンタインオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 2/11(日) 製菓マイスターコースのみ 参加者 16名

(5) 春のオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 3/21(水・祝) 参加者 91名（前年度 114名、前々年度 155名）

6. 留年、退学、除籍の状況

- ・留年者数 2 名（前年度 7 名） 退学者数 29 名（前年度 28 名） 除籍者数 2 名（前年度 8 名）

7. 卒業生の状況

(1) 卒業状況（9 月卒業含まず）

卒業総数 266 名（前年度 327 名）

- ・生活学科 72 名（前年度 73 名）
- ・幼児教育保育学科 138 名（前年度 162 名）
- ・ビジネスコミュニケーション学科 56 名（前年度 92 名）

(2) 免許・資格等の取得状況（9 月卒業含まず）（ ）内は前年度人数

生活学科

中学校教諭二種	0 名(0 名)	フードスペシャリスト合格	11 名(7 名)
栄養士免許	33 名(38 名)	製菓衛生師受験資格	24 名(32 名)
栄養教諭二種	0 名(1 名)		

幼児教育保育学科

幼稚園教諭二種	120 名(137 名)	保育士資格	127 名(143 名)
レクリエーション・インストラクター	0 名(2 名)		

ビジネスコミュニケーション学科

上級秘書士 [㊦]	2 名(21 名)	秘書士 [㊦]	40 名(67 名)
上級情報処理士 [㊦]	3 名(13 名)	情報処理士 [㊦]	46 名(77 名)
上級ビジネス実務士 [㊦]	4 名(新規)	ビジネス実務士 [㊦]	4 名(新規)
上級秘書士 [㊦] (メーICAL秘書)	1 名(14 名)	ウェブデザイン実務士	1 名(11 名)
日本医師会医療秘書合格	5 名(10 名)	レクリエーション・インストラクター	7 名(9 名)
健康運動実践指導者合格者	0 名(0 名)		

(3) 就職状況（平成 30 年 5 月 1 日現在）

- ・就職率 99.2%（前年度 99.3%）
- ・幼児教育保育学科就職者の幼、保、施設への就職率 94.7%（前年度 83.3%）
- ・公務員（正規）合格者 14 名（前年度 7 名）
- ・総求人件数 1,181 件（前年度 1,096 件）

8. 専任教員の授業担当状況（1 週あたりの授業時間数）

	前期担当平均時間数	後期担当平均時間数	通年担当平均時間数
・生活学科	10.5（前年度 9.1）	10.1（前年度 11.9）	10.3（前年度 10.5）
・幼教学科	12.1（前年度 13.1）	12.7（前年度 13.2）	12.4（前年度 13.1）
・ビジ学科	13.1（前年度 12.2）	11.2（前年度 11.8）	12.2（前年度 12.0）

9. 教員の状況（平成 29 年 5 月 1 日現在）

(1) 専任教員数

31 名（前年度 31 名） ※専任特任教員 6 名含む〔特任教授 3 名、特任助手 3 名〕

(2) 非常勤教員数

101 名（前年度 99 名） ※非常勤特任准教授 2 名、非常勤特任助教 1 名含む

10. 教員の外部資金獲得状況

(1) 科学研究費助成事業（科研費）：文部科学省・日本学術振興会

教員名	研究課題	29年度交付決定額	研究種目
小山内 幸治	金融リテラシー高度化プログラムの実施と期待形成効果の検証	403千円 うち間接経費 93千円	基盤研究（C） 研究分担者
山中 博史	幼児が楽しんで行えるステップアップ式敏捷性テストの作成	65千円 うち間接経費 15千円	基盤研究（C） 研究分担者
佐藤 尚武	幼児が楽しんで行えるステップアップ式敏捷性テストの作成	65千円 うち間接経費 15千円	基盤研究（C） 研究分担者
金澤 雄介	サルデーニャ語における語順と情報構造の通時的研究	780千円 うち間接経費 180千円	若手研究（B） 研究代表者
李 霞	グローバル人材育成と国際バカロレア—アジア諸国のIB導入実態	900千円	学術図書

(2) 地域共生型社会推進事業助成金：滋賀県民間社会福祉事業職員共済会

教員名	事業名	29年度助成金額
李 霞	滋賀県における「保育士の質」の実態と課題—滋賀県南部地域の調査を手掛かりに—	200千円

11. 教員の研究費の状況

(1) 個人研究費

- ・専任教員一律 25 万円

(2) 学長裁量経費の区分

- ・学長裁量経費Ⅰ型（教育改革）

Ⅰ型：全学的課題及び学科的課題の解決に向けた教育改善

申請者 1 名 申請合計額 190 千円 採択者 1 名 採択合計額 150 千円

Ⅰ型2：授業改善に関わるモデル授業づくりの教材開発 申請なし

- ・学長裁量経費Ⅱ型（研究推進）

Ⅱ型1：地域の教育文化や産業等との連携による教育研究の推進

申請者 11 名 申請合計額 1,935 千円 採択者 11 名 採択合計額 1,650 千円

Ⅱ型2：発展的・高度化に関わる教育研究の推進

-1：国際学会等における発表への支援 申請なし

-2：学術雑誌等への投稿への支援 申請なし

-3：学術出版物の刊行への支援 申請者 2 名 申請合計額 400 千円 採択者なし

Ⅱ型3：外部資金に関わる教育研究の推進

-1：科学研究費補助金に関わる継続的研究への支援 申請なし

-2：自治体等の補助金に関わる研究への支援 申請なし

- ・学長裁量経費Ⅲ型（教育支援）

Ⅲ型1：公開講座等の教材開発に関わる支援

担当者 6 人 計 100 千円

Ⅲ型 2：地域との連携による講座等の教材開発に関わる支援

担当者 11 人 計 140 千円

・学長裁量経費Ⅳ型（特別支援）

Ⅳ型 1：特任助手に対する研究費の支援（1人当たり 100 千円）

支援者 4 人 計 350 千円

Ⅳ型 2：特任教員（非常勤）に対する研究費の支援（1人当たり 50 千円）

支援者 2 人 計 100 千円

Ⅳ型 3：新任教員に対する研究費の特別支援（1人当たり 50 千円）

支援者 4 人 計 200 千円

・学長裁量経費Ⅴ型（教職員表彰）

A ランク評価者：1 件あたり 100 千円 表彰者なし

B ランク評価者：1 件あたり 50 千円

表彰者のべ 14 人 計 700 千円

総額 3,390 千円

1 2. 教職員の研修状況

(1) F D 研修（高等教育開発センター主催）

・学内研究会 3 回開催（7/6、8/31、2/1）

(2) S D 研修（S D 委員会主催）

・学内研修会 3 回開催（職員研修：6/1、8/17、人権研修 12/7）

・S D 関連報告会 3 回開催（6/27、10/31、2/27）

(3) 地域連携教育研究センター主催

・学内研究会 3 回開催（5/11、9/7、3/22）

1 3. 短大生調査 2017 の状況

・調査実施日 平成 29 年 11 月 9 日（木）

（ ）内は前年度人数

・調査対象者数 565 名（616 名） 回答者数 546 名（584 名） 回答率 96.6%（94.8%）

1 4. カリキュラムの変更等

・共通科目

新設科目 5 科目 計 6 単位

名称変更科目 2 科目 計 2 単位

廃止科目 2 科目 計 4 単位

・生活学科

専門科目における新設 2 科目 計 3 単位

専門科目における必修選択の変更（選択→必修） 2 科目 計 4 単位

専門科目における単位数の変更 1 単位→2 単位 2 科目

専門科目における名称変更科目 3 科目 計 3 単位

専門科目における廃止科目 28 科目 計 47 単位

・幼児教育保育学科

専門科目における名称変更科目 2 科目 計 2 単位

・ビジネスコミュニケーション学科

専門科目における新設 6 科目 計 9 単位

専門科目における名称変更科目 3 科目 計 5 単位

15. 大学及び自治体等との連携事業

- (1) 滋賀医科大学との共催講座：8/5
 - ・午前：講演（滋賀医科大学担当）
 - ・午後：調理実習（滋賀短期大学担当）
- (2) 滋賀大学教員免許状更新講習：8/9
 - ・選択講座における幼児教育領域の2講座を担当
- (3) 滋賀県保育協議会との連携講座（家庭的保育事業等研修）
 - ・基礎研修：7/16、7/30、8/20、9/2 於 滋賀短期大学
- (4) 地域移動講座
 - ・7会場開催（甲賀市、長浜市、高島市、東近江市、近江八幡市、守山市、大津市）
- (5) 図書館連携講座
 - ・大津市立浜大津図書館 2回開催（6/3、7/8）
 - ・大津市立和邇図書館 2回開催（8/5、9/2）
 - ・大津市立北図書館 2回開催（10/7、11/11）
- (6) 平野学区連携教育講座
 - ・平野市民センター大会議室 1回開催（1/27）
- (7) 地域との課題解決型実習
 - ・生活学科と滋賀県農政水産部水産課との連携
「びわ湖の魚を使った親子料理教室」を実施：12/22
 - ・ビジネスコミュニケーション学科・生活学科と道の駅との連携
「道の駅竜王かがみの里」と連携企画型実習を実施：3/29、8/5、10/15

16. 公開講座の開催

- (1) こども講座（第11回）
 - ・6講座 延べ開講日数8日（8/7～8/23） 受講者総数 78名
- (2) すみれキャリア講座（第20回）
 - ・8講座 延べ開講日数14日（8/8～9/20） 受講者総数 129名
- (3) 淡海文化講座（第31回）
 - ・4講座2日間（9/30、11/25） 受講者総数 78名

17. 研究紀要および地域連携年報の刊行

- (1) 研究紀要第43号
 - ・学術論文15編、研究ノート2編、延べ投稿者数17名、印刷部数400部
- (2) 地域連携年報第5号
 - ・調査研究プロジェクト10編、地域との教育研究活動8編、地域に向けた公開講座5編、大学及び自治体等との連携事業5編、高大連携事業2編、資料（新聞などに掲載された記事（平成29年1月～12月））、印刷部数400部

18. 図書館の整備

- ・授業期間中は8時30分から19時まで開館し、実習期間中は土曜日も開館
- ・図書館の外部者利用の体制と整え、本格的に地域住民への開放を開始

- ・ Web 上に「滋賀短期大学学術情報リポジトリ」を設置し、過去 5 年間の紀要掲載論文を公開

19. 補助金の獲得状況

- ・ 私立大学等改革総合支援事業（タイプ1 教育の質的転換） 3,525 千円
- ・ 私立大学等改革総合支援事業（タイプ2 地域発展） 2,968 千円
- ・ 私立学校施設整備補助 21,707 千円（工事費 43,979 千円）
- ・ 防災機能強化緊急特別推進事業補助 3,294 千円（工事費 6,588 千円）

20. 施設・設備の整備状況

- ・ 1号館サッシ改修工事 22,251 千円
- ・ 2号館サッシ改修工事 10,580 千円
- ・ トイレ改修工事（1・3号館） 11,880 千円
- ・ 正面玄関通路バリアフリー化工事 6,588 千円
- ・ 1、2号館消火配管更新工事 17,820 千円
- ・ 学生ホール洗面器更新 1,296 千円

<高等学校>

1. 学習（体験）活動

ア 福祉体験

- ・ 1年生Ⅰ類が11月15日～17日に12保育施設、13介護施設にて保育・介護体験学習を行った。
- ・ 1年生2年生の人間総合科が前年度と同様に、附属幼稚園および本校で保育体験学習を行い、
- ・ 3年生の人間総合科が朝日が丘保育園・逢坂保育園・逢坂幼稚園、大津さくらこども園で保育体験学習を行った。

イ 伝統文化体験

- ・ フレッシュ講座伝統文化分野で「剣舞」では外部講師を招き日本刀と扇子を使う独特の文化を選択体験させた。
- ・ フレッシュ講座伝統文化分野で「茶と文化と言語」では抹茶煎茶の他紅茶や中国茶の文化作法を選択体験させた。
- ・ フレッシュ講座伝統文化分野で「折り紙で万華鏡を作ろう」では折り紙の折り方を学び、これを使った万華鏡を製作した。
- ・ 実践講座（3年Ⅰ類）では、臨済宗妙心寺派石馬寺住職を招いて座禅体験を行った。気持ちを整理し感情をコントロールして、物事に冷静に対処する心を養い自分自身を見つめることを目標とした。

ウ 国際理解教育講演

フレッシュ講座「国際交流」：日本で活躍されているブラジル、韓国、フランス、アメリカ、カナダ出身者を毎回講師として招き、出身国の特徴を知り、様々な国の人と交流することで異文化を理解した。

エ フレッシュ講座

- ・ 教師が得意とする分野や外部講師を招いて、講座（29講座）を開講し、生徒はそこから挑戦したい講座を選び1年間学ぶ。
- ・ 高大連携として、びわこ成蹊スポーツ大学からスポーツ学、聖泉大学から心理学、滋賀短期大学から保育について教授による講座を開講し、多くの生徒が受講した。
- ・ 剣舞、国際交流は外部講師を招き、ボランティア活動、スポーツ、科学、数学、文学、語学、美術、各種検定から物づくりなど日常の教科学習では学べない幅広い分野で実施している。
- ・ 今年度は12月に全校生徒を体育館に集め、講座毎に成果を発表した。大学などの外部講師も来られる中、流暢な英語での寸劇やプレゼン、剣舞やバレーボールの実技など工夫が見られた。次年度も開講する予定で講座の特徴を全員が知ることもできた。

オ 全校生徒のスポーツ活動、文化活動

- ・ スポーツフェスティバル：1日目 6月28日 本校で応援合戦と一部競技
2日目 6月29日 竜王町ドラゴンハットにて競技
- ・ 文化祭：1日目 9月1日 大津市民会館にて舞台発表
2日目 9月2日 本校にて展示と模擬店を中心に開催
「湖嶺祭」命名し、～受け継ぐ伝統と彩る技～をテーマとした。
- ・ 踏破：3月14日に1年生2年生の全員が長距離を歩行し、忍耐力を養うとともに集団行動や公衆道徳と滋賀の自然や文化・環境を学んだ。琵琶湖岸・瀬田川岸を各自

歩行能力に合わせて、16km（唐橋折返約300名）・21km（京滋バイパス折返約100名）・26km（洗堰折返約55名）の歩行距離から選択した。保護者2名に昼食場所で協力いただいた。

- ・すみれンピック：生徒会主催で3月19日に、バドミントンなど球技3種目と百人一首やオセロなど文化系競技5種目を開催し、クラス対抗で優勝を争った。

カ 宿泊体験・校外体験学習

○年度初めの各学年学科類型の体験学習は以下のとおり

- ・1年：4月11日～13日に、教師と生徒、生徒相互の人間的なふれあいを経験し、集団生活への適応を図ることを目的として、若狭湾青少年自然の家にて2泊3日の宿泊研修を実施。
- ・2年：大阪イングリッシュヴィレッジ（大阪万博跡地）で、アメリカ北部とカナダの会社や店等の場面設定でネイティブ相手に英会話を学習した（4月11日）
- ・3年Ⅱ類：希望ヶ丘公園にて英語を中心とした学習合宿（4月12日～14日）
- ・3年Ⅰ類・人間総合科：大学見学会（4月12日）

○人間総合科の体験学習

- ・1年生：平成30年2月13日～2月17日と2月19日～2月23日の各5日間を使って、大津市草津市の21店舗事業所で職場体験を行った。
家庭科専門科目「子どもの発達と保育」の実習を10月16日と11月15日に滋賀短期大学附属幼稚園で行った。
- ・2年生：Ⅰ類とともに学部学科別に6コースに分かれて大学発見、専門学校見学を行う。（6月22日）
乳幼児の健全な成長と遊びや意欲・能力について体験実習を通じて学習する。（7月12日 滋賀短大附属幼稚園）
附属幼稚園でプール遊び（年長年中）と水遊び（年少）を中心に着替えや昼食（準備を含む）の保育体験実習を行う。（7月12日）
フラワーアレンジメントを科目「フードデザイン」の中でテーブルマナーとテーブルコーディネート学習として実習を行った。（2月27日日比谷花壇南常隆氏ほか2名）
校内菜園での米野菜栽培とそれらを食材とした調理実習と干し柿作りで伝統的保存食自然食の知恵と工夫を知る。
- ・3年生：家庭科専門科目「課題研究」で8名の生徒が、外来魚と郷土料理を研究テーマとし、ブラックバスの調理法として、三枚おろしとムニエル、唐揚げの体験実習を行った。県水産課の三枝仁副主幹と県漁業協同組合連合青年会の中村清作会長の指導で4匹のブラックバスをさばいた。（6月8日、毎日新聞・京都新聞掲載）
附属幼稚園年中児49名を6班に分け、ライフデザイン類型生徒がお絵描きや工作、ゲームなど手作りの遊びを工夫し園児とふれあい、家庭科科目「子ども文化」の学習を行う。（7月14日附属幼稚園にて）
- ・学習成果発表会：2月16日に3年生の家庭科学習の集大成として、2年生を前に事前学習として、ファッションデザイン類型と課題研究の学習成果を発表した。また、すみれカフェ（地域親子とともに保育を学ぶ）報告の後、3年生で茶話会を行った。

- ・針供養：12月7日に理事長はじめ学園本部と同窓会役員の参列のもとに実施した。創設当時からの歴史と伝統を受け継ぎ、物作りの技術と大切さを再認識し、技術の向上を祈願した。

○Ⅱ類の体験学習

- ・2年生が大阪で開催された「生徒夢ナビライブ（大学発見）」で1時間毎の学部学科別体験学習講座に参加し、大学での学びを体験した。（6月17日）

○Ⅰ類の体験学習

- ・1年生では11月15日～17日まで12保育施設と13介護施設に分かれて乳幼児や高齢者と交流を行い子育てと介護の体験学習を行った。
- ・2年生が人間総合科とともに学部学科別に6コースに分かれて大学発見、専門学校見学を行う。（6月22日）

キ 実践講座

3年生Ⅰ類の総合的な学習の時間として毎週金曜日の午後に、高校単独（各種体験・97名）と高短連携（滋賀短大・21名）に分かれて「現代社会を知り、未来につなげる学びの時間」として実施。この講座は、体験活動を通し達成感や充実感を感じ取るとともに、自己の進路を模索する活動に結びつける。また、問題解決能力を育成し、自己のあり方と生き方を考える。2週で1講習（事前学習・体験活動・事後学習）とし、11月に整理とまとめ、12月に2年生を交えて発表する。高校単独では、マナー・ビブリオバトル・救命救急・座禅・近江の魅力PR・議会見学（滋賀県議会）・裁判所見学（大津地方裁判所公判）などをテーマに、専門家の講義や機関施設の見学を通して体験学習を行う。高短連携では、滋賀短大で各学科の体験学習を中心に短大での学びを知るとともに受験アドバイスを含めた体験学習を行う。

ク テーブルマナー

ホテル担当者から食事作法について説明と注意を受け、要領に従って食事を行い一連の食事マナーを学習した。（10月3日）

ケ 18歳選挙権を意識した生徒会役員選挙

大津市選挙管理委員会から投票箱と記載機など一式を借用し、投票者名簿確認と投票用紙交付と立会を行う本格的な投票形式を体験させている。本年度は総選挙の直後の10月25日（水）に実施し、18歳選挙権に関する学習の一環とした。

コ 講演（啓発）活動

1年生対象

- ・薬物乱用防止講演（11月8日）大津警察署生活安全課 山元優史氏
- ・「租税教室」（3月17日）大津税務署横手氏が1時間話された

2年生対象

- ・進路講演「急激な時代を生き抜くためのアップデートの重要性」京都造形芸術大学 吉田大作教授（11月29日）
- 講演後、一般入試クラスと実力テスト説明

全学年対象

- ・スマホ・携帯学習会「スマホ・ケータイ安全教室 応用編」（4月19日）
講師 NTTドコモ清水純代氏
- ・創立記念行事（兼芸術鑑賞）第1部式典では松村理事長が本校創設期の状況とその後

の変遷と発展についてお話をされた。第2部公演では音楽座のミュージカルを鑑賞した。この公演はシアターラーニングという生徒参加型で、ミュージカルを題材にコミュニケーション力と自己表現能力を身につける方法として行われた。リーダーの俳優が進行し、他の4名の俳優とともに生徒を舞台に上げ台詞や演技を指導しながら独自のミュージカルをつくり、舞台と観客が一体化する方法であった。(5月9日)

- ・人権講演(10月11日)「いのちの授業」橘依里氏(平成19年3月本校普通科卒業)に、自分のいのちを大切に思い、相手のいのちも大切に思うことが様々な困難に立ち向かう力になることを看護師助産師の経験から講演していただいた。
- ・人権共同映画鑑賞(12月15日)「この世界の片隅に」(戦時中の呉に広島から嫁いだ主人公すずの生き方を描いた戦争と平和を考えるアニメーション)

職員研修

- ・「あの日学校で起きたこと」(危機管理)と「10年後の滋賀短期大学附属高校のビジョン」講師 奥田浩信指導教諭(本校職員)。前年度の中央研修報告を兼ねてワールドカフェ方式を取り入れ参加型研修実施。(6月12日)
- ・職員掃除研修(12月5日)講師 NPO法人日本を美しくする会・滋賀掃除に学ぶ会。トイレ掃除を中心に掃除の心構えと手法を学び、生徒に校内外の美化を指導する。
- ・「公文書の作り方・注意点」講師 辻雅代副校長、「生徒の文章の指導法」講師 小林昌彦指導教諭。「本校の変遷」を9グループに分かれ、ベテラン教員を中心に討議。振り返りシートの作成提出。(12月12日)
- ・人権研修(2月15日)主題「生徒ひとりひとりにとって居心地のよいクラス経営を目指して」3学年からの実践発表をもとにグループ討議と意見交流。

サ 国際交流

- ・ニュージーランド語学研修とニュージーランド3ヶ月短期留学
昨年度から開始した。参加者を募ったが希望者がなかった。
- ・ニュージーランド11ヶ月長期留学
1年生向井みのりが平成30年1月24日～12月中旬までヒッポファミリークラブ(海外高校留学制度)を利用して留学している。(帰国後は留学単位として認める予定)
- ・海外研修
2年生海外研修旅行としてグアム研修(9月30日から3泊4日)を予定していたが、国際情勢の緊迫状況(北朝鮮のミサイル)を考慮し、安全を確保するために行き先を急遽変更した。検討の結果、香港・マカオ(生徒の93%)と鹿児島・屋久島(生徒の7%)の2コース選択制で3月3日～6日に実施した。
- ・留学生受け入れ
南米エクアドルからの留学生 PAREDES HERNANDEZ DIEGO ESTEBAN (パレデス エルナンデス ディエゴ エステバン) 男子17歳を2年生Ⅱ類(理系)に受け入れた(通称パレデス ディエゴ)。期間は4月1日～12月22日、ホームステイ先は大津市松山町、留学目的は日本語の修得と日本文化の学習である。本校生活にも慣れ、12月22日の終業式では日本語でお別れの挨拶を行った。
- ・オンライン英会話ウエブリオ(weblio)
パソコンのテレビ電話機能を利用したマンツーマン式の英会話で、有名大学を卒業したフィリピン人ネイティブスピーカーと約30分間会話をした。2年Ⅱ類の英語の授業で実施した。

シ エコフオスター活動

滋賀県が実施する淡海エコフオスター事業に参加し、毎月1回1年生各クラスで校外清掃活動を行う。さらに、生徒会役員とフレッシュ講座「地球にやさしく」でも実施した。

ス 郷土学習

実践講座（3年I類）では、大津市や滋賀県の良さを改めて発見し将来像を深く考えることを目標に、「近江の魅力をPRしよう」と題して、フィールドワークや調査で資料を収集整理し、グループ毎に発表した。

文化祭では今年度の新しい取り組み「プレゼンバトル」で1年生（7学級）2年生（8学級）のクラス代表が郷土を紹介する発表を行った。15会場を設定し5分の持ち時間内に各クラスの代表が順次会場を2分で移動し、全生徒を対象にプロジェクターを用いて発表した。オーディエンスの生徒は得点表にその結果を記載し、高得点のクラスを閉会式で表彰した。1年生は大津市を2年生は滋賀県をテーマにフィールドワークを含めた資料を収集した。

セ 防災避難訓練・救命救急体験・性の健康教室

緊急地震速報シェイクアウト訓練を実施した。これは文部科学省が広域参加を呼びかけている取り組み。生徒には事前予告なしに大地震が発生したと想定し、放送によって2分20秒間の防災訓練とした。観察記録をとり反省を行った。（11月1日（水）5時間目（13時35分開始））

3年生I類の生徒111名が大津市中消防署消防士の指導の下、実習用蘇生人形を使ってひとり一人が心肺蘇生法の体験をした。（8月25日）

3年生I類の生徒85名が、性犯罪について知り事前に回避し被害に遭わない行動や性のモラルを身につけるとともに、妊娠や中絶の問題を通して命の大切さを学ぶ。（5月19日、26日、6月10日）

ソ 夏休み保育ボランティア

希望者を募り保育ボランティアとして長期活動を行った。希望者は事前に5回の保育研修を受講し、「保育ボランティア研修修了証」を取得し、面談や施設との打ち合わせを行い実施した。6月19日から年度末まで週に1～2回15時40分～17時40分市立逢坂保育園と短大附属幼稚園で10名が、夏休み中に県内18の保育園・認定子ども園に21名が活動した。

タ その他のボランティア活動

- ・文化祭2日目の献血経験を通して、必要とする人々のもとへ血液を届けるとともに、奉仕や援助といった人を思いやるボランティア精神を育む。対象者は2年3年の生徒の他、教職員と保護者、地域の方々とした。（9月2日）

- ・フレッシュ講座「地球にやさしく」 選択者が公益財団法人滋賀県緑化推進会の職員と協力しながら募金を呼びかけ集まった募金をわたす。中庭の花壇に草花を育てる園芸活動も行う。

- ・フレッシュ講座「コミュニティに関わろう」 講座選択者が古着回収などを通して、学校周辺の方々と交流を深める。

チ 高大連携

- ・高大連携を密にする体験活動を積極的に取り入れた。3年生I類の実践講座「高短連携」の他に、フレッシュ講座で3講座を開設した。滋賀短期大学による「保育講座」、聖泉大

学による「心理講座」、びわこ成蹊スポーツ大学による「スポーツ学のすすめ」では、各大学から教授が講師としてこられ、多くの選択者が専門分野の学習と各大学の特徴を継続して学習した。

ツ ICT機器を利用した学習

- ・「すらら」：ICT教育推進に当たり、自立学習応援プログラムのe-ラーニング教材「すらら」を6月から本格的に授業に導入した（1月～5月に4回の職員研修を実施）。英語と数学を中心に一部国語で利用し、授業の他放課後の講座や家庭学習（課題）でも利用し学習効果を高めていきたい。これに伴い、タブレット型パソコン80台やLAN環境を整備した。
- ・「Classi（クラッシ）」：校内塾生を対象にベネッセが運営するICT有料コンテンツ（生徒1人年額3,600円）を利用する。これはベネッセ模擬試験と連動しており、復習と受験対策としていく。

テ プレゼンテーション

- ・授業では家庭科・地歴公民科をはじめ、各教科調べ学習（図書館・パソコン・フィールドワークなど）と資料整理と発表を積極的に行っている。
- ・総合的な学習の時間では、フレッシュ講座と実践講座で最終時間に履修者と次年度履修予定者に対して、1年間の成果をプロジェクター等を使って発表した。
- ・学校行事では、文化祭2日目に前述の郷土学習のプレゼンテーションを行った。

ト 休業土曜日の自習室開放

休日土曜日（第2・第4・第5）の9時～17時にまで、学校で学習できるよう自習室1室を開放した。利用者は年間で40名（1回平均2.5名）あり、年間16回開放した（午前午後1名ずつの職員が監督）。

2. 進路指導

- ア ・3年生保護者進路説明会を実施。全体会として昨年度進路結果と本年度進路計画、学級担任と個別懇談（希望者91名）（5月20日）
 - ・3年生就職希望者を対象に、キャリアガイダンスと面接指導を7月24日から7月28日にかけて4回夏休み中に実施。【大津ハローワークとさんぽう】
 - ・2年生全員が分野別ガイダンス（学部学科別）に臨んだ。13大学（短大含）9専門学校1就職の23分科会2ローテーションで実施し、進路選択の基礎知識とした。（5月24日）
 - ・2年生では17大学（短大含）7専門学校1就職の25ブースを設置し、生徒が3ローテーションで各ブースを回って説明を聞き、具体的な進路選択ができるように学習した。（3月17日）
 - ・1年生では「自分の夢を叶える」と題して弁護士角田龍平氏を招いて自分自身が司法試験に9回挑戦した経験をもとに1時間にわたって話され、生徒は自分になりたい職業に向けて努力することの大切さを学んだ。（3月17日）
- イ 普通科Ⅰ類一般入試クラスの状況
- Ⅰ類から4年生大学への進学者が増加したのを受け、昨年度から一般入試クラスを設け、今年度も1学級（27名）設置した。Ⅱ類と同じ教育課程で展開し履修することで進学への意識を高めた。また、後述する校内塾に24名の生徒が入塾しており、タイアップした

進路指導を展開した。その結果、20名がセンター試験一般試験で受験し、昨年度に続き成果があった。

ウ 校内塾

前年度春休みから希望者対象に事前開講したのを受け、4月から本格的な活動を展開した。3年生から53名が入塾し、専属の正副塾長（3教諭）を中心に水曜日を除く授業日の放課後15時30分（土曜日は13時30分）～19時まで集中的に学習指導を行った。センター試験一般試験に向けて計画的に取り組み、希望大学に納得のいく形で進学できた。今年度2年目となり、オープンスクールや学校説明会で中学生や保護者からの関心が強い。さらに、一層の受験学習意識の向上と進路志望をかなえることを目標とし、2年生を対象に「受験スタート講習」を10月30日から開始した。75名が参加している。

エ 卒業生の進路決定状況

大学	短大	専門・各種	就職	その他	合計
108名	63名	45名	11名	9名	236名

3. 地域連携

ア すみれカフェ：SPH

イ 生活デザイン科公式 Facebook ページを開設（9月28日）

衣食住保育の4分野に関する学習活動をリアルタイムで紹介し、人間総合科（生活デザイン科）の魅力も多くの人に伝える。家庭科の授業だけでなく、近隣の幼稚園・保育園での保育実習、地域や企業と連携した活動の他農業体験や郷土・伝統文化や染色・礼儀作法・プレゼンテーションに関わることなど多岐にわたる内容を発信する。パソコンだけでなくスマートフォンからも手軽にアクセスでき、より身近に学習活動や課外活動の様子を知ることができる。

ウ SUMIRE Culture & Sports Club（すみれ CSC）

かねてから運動部が開催していたスポーツ教室2講座と天体観測の他にフィットネスの健康分野にも広げた。

・バスケットボール教室

本校職員が指導者として、また地域企業で活躍されている本校卒業生の協力を得て、バスケットボールを通して小中学生の自主活動と指導者の自主研修の場としている。小中学生および一般約300名参加、年間15回開催。

・バレーボール教室

本校職員が指導者となり、また本校生徒がアシスタントとして、バレーボールを通して子どもの自主活動と指導者の自主研修の機会としている。小中学生および一般約400名参加、年間15回開催。

・フィットネス健康教室

ウェーブストレッチを中心にヨガ・ダンスの要素を取り入れ、ほぐす・引き締める・伸ばすなどを行い、自分の体に向き合い身体の声を感じ、セルフコンディショニングで健康の保持増進を行う。健康志向意識もあり近隣の方々が毎回多数参加されており、好評をばくしている。近隣住民中心約300名参加、年間10回開催。

・天体観測会

近隣小中学生を中心に地元自治会や一般からも参加者を募り、天体望遠鏡を使って惑星と星座の観測と講話を聞き、天体についての知識を得るとともにロマンを感じる。近隣の小中学生と保護者の方を中心に回を重ねる毎に参加者が増え、定員の50名を超えお断りをするまでになった。近隣の小中学生とその保護者205名参加。年間4回開催。

エ 文化部による地域参加活動

文化部では校内の活動や発表・コンクールとは別に、生徒自らが地域や企業の活動に積極的に参加し、地域とのつながりを強め、地域や企業に愛される学校づくりに努めた。文化部活動の幅を広げ社会の一員として活動することで、文化部の一層の発展をめざし、以下の活動を行った。

・軽音楽部

4月30日なぎさ公園おまつり広場での「けいおんストリート Live Vol.1」に参加し演奏発表した。これは県や企業を巻き込む近隣コミュニティライブである。また、10月28日「クサツハロウィン 2017 東口デッキステージアニソンライブ」に草津市立まちづくりセンターで演奏発表した。

・吹奏楽部

7月1日に西武大津店で「みんなでびわ湖就航の歌を歌おう！」と題して、演奏とマーチングを披露した。また、10月15日に浜大津スカイプラザで開催の「大津ジャズフェスティバル」、さらに、11月26日の「逢坂こどもまつり」では逢坂小学校運動場で入場行進・BGM演奏とまつりの補助役員として活動した。

・家庭部

8月20日に朝日が丘保育園で、月が丘子ども会「子ども夏祭り」に参加し小中学生以下の子どもの世話とゲームなどの補助活動を行った。また、11月12日には、逢坂市民センター前30メートル道路で大津駅前中央大通りオープンモール「マルシェ」に「SMILE(スマイル)キッチン」として参加し、手作クッキー(¥200)とマフィンサンド(¥300)を調理販売し早々に完売した。

・ダンス同好会

9月9日になぎさ公演おまつり広場で「みーつ大津*秋オープニングイベント」のオープニングセレモニーでダンスを演技発表した。

4. 施設・設備の充実

・ 職員室、事務室、保健室、書道室、美術室、音楽室、校内塾等の移動	12,225 千円
・ 2号館2階改修工事（職員室・臨時校長室・臨時事務室、 中野富美記念館改修（1階・3階）、生徒職員靴箱移転	58,147 千円
・ 2号館2階 職員トイレ改修工事	9,288 千円
・ 1号館解体工事、2号館階段棟解体工事と仮設階段工事	60,480 千円
・ 調理室全面改修工事（機器修理含む）	27,021 千円
調理台の更新	10,454 千円
・ 新校舎建設に伴う既存インフラ改修（ガス・上下水道・電気工事）	133,056 千円
・ 「和心館」の追加改修工事	9,000 千円
・ 生徒用タブレット端末の整備	4,150 千円
・ ホームルーム・学習室にプロジェクター設置	11,664 千円
・ 3号館空調設備更新	23,657 千円
・ 中野富美記念館耐震診断	1,890 千円

5. 生徒募集関係

入試結果と入学者数（男子内数）

単位：人

区 分	専・併	普通科	生活デザイン科	合 計
志願者数	専 願	1 0 4 (43)	3 0 (1)	1 3 4 (44)
	併 願	1 1 0 2 (450)	1 1 8 (0)	1 2 2 0 (450)
	合 計	1 2 0 6 (493)	1 4 8 (1)	1 3 5 4 (494)
合格者数	専 願	1 0 3 (42)	3 0 (1)	1 3 3 (43)
	併 願	1 0 7 5 (436)	1 1 7 (1)	1 1 9 2 (437)
	合 計	1 1 7 8 (478)	1 4 7 (2)	1 3 2 5 (480)
入学者数	専 願	1 0 3 (42)	3 0 (1)	1 3 3 (43)
	併 願	1 1 4 (47)	1 8 (0)	1 3 2 (47)
	合 計	2 1 7 (89)	4 8 (1)	2 6 5 (90)

普通科Ⅱ類 志願者数 594人（内男子203人） 入学者数 74人（内男子 23人）

◆中学校・塾訪問（滋賀県98校、京都16校、塾357校）年5回

ア 6月、8月、11月に生徒・保護者対象のオープンスクール開催と10月、12月に生徒保護者対象の学校説明会を開催し、1092名の参加者（生徒957名、保護者575名）があった。

イ 塾対象の入試説明会2回実施（4月、9月）

ウ 滋賀の私立学校展に参加 イオンモール草津（110組）（8月26日27日）
彦根ビバシティ（5組）（8月20日）

エ 中学校主催入試説明会に参加（25校）

オ 塾主催の進学説明会に参加（4校）

カ 中学校教員対象説明会1回実施（26校）（6月）

6. 体育部の活動（主な成績）

●全国高校総合体育大会出場

バドミントン女子団体出場、個人複出場、単出場

バスケットボール女子出場

●全国高校選抜大会

バスケットボール女子出場

●全国高等学校選抜バドミントン大会

バドミントン女子出場

●近畿大会

バスケットボール女子出場、バレーボール女子出場、バドミントン（団体3位、単出場、複出場）、ソフトテニス女子（団体出場、個人出場）、陸上競技部（女子800m出場、女子3000m出場、近畿高等学校駅伝競走大会出場）

●県内等各種大会結果（主なもの、団体ベスト8以上、個人ベスト16以上）

・バスケットボール女子

春季高校総体優勝、次期滋賀国体強化指定部、秋季高校総体優勝、最優秀選手・優秀選手

- ・バドミントン女子
 - 春季高校総体（団体優勝、単優勝・2位・3位、複優勝・2位・3位）、次期滋賀国体強化指定部（内定）、秋季高校総体（団体優勝）
 - ・バレーボール女子
 - 春季高校総体準優勝、秋季高校総体ベスト4
 - ・ソフトボール女子
 - 春季高校総体出場、秋季高校総体ベスト8
 - ・陸上競技男子・女子
 - 春季高校総体（女子800m4位、女子1500m5位、女子砲丸投4位、女子3000m7位、女子円盤投10位、女子走幅跳11位）
 - 秋季高校総体（女子3000m2位、800m3位）、滋賀県高等学校駅伝競争大会女子4位
 - ・ソフトテニス女子
 - 春季高校総体団体5位、ペア9位、秋季高校総体団体9位、ペアベスト32
 - ・体操女子
 - 春季高校総体個人9位
 - ・剣道男子女子
 - 春季高校総体出場、秋季高総体男女個人ベスト16
 - ・卓球女子
 - 春季高校総体シングルスベスト32、秋季高総体個人10位
 - ・硬式野球部
 - 春季大会（ベスト16）、選手権大会県予選（1回戦敗退）、秋季大会（1回戦敗退）、1年生大会（1回戦敗退）
 - 第99回全国高等学校野球選手権大会滋賀大会（出場）、平成29年度秋季近畿地区高等学校野球滋賀大会（出場）
 - ・柔道女子
 - 春季秋季高校総体出場、第59回近畿高等学校柔道新人大会（個人）出場
 - ・バスケットボール部男子
 - ・ソフトテニス部男子
 - ・卓球部男子
 - ・サッカー男子
- } 県高校総体出場

7. 文化部の活動

前述の地域参加行事の他に次のような活動を行った。

- ・吹奏楽部
 - 県高文祭参加、県吹奏楽祭参加、県高等学校総合文化祭吹奏楽部門参加、県吹奏楽コンクール予選銀賞、県アンサンブルコンテスト銀賞、第8回定期演奏会、入学式等で演奏
- ・軽音楽部
 - 第9回野洲軽音楽部クラブ対抗コンテストで3年生バンド「さんねんせいフレンズ」が最優秀賞を獲得し、東京での全国高校軽音楽コンテストに出場した。
 - 新年ライブ（石山ユーストン）

・書道部

近江神宮全国献書大会（入賞6）、高円宮杯日本武道館書写書道展（入賞7）、全日本書き初め大覧会（入賞6）、高野山競書大会（入賞6）、伊勢神宮奉納書道展（入賞2）、全国学生比叡山競書大会（入賞5）、滋賀読売競書大会（入賞6）、滋賀県書き初め覧会（入賞3）

・家庭部

保護者と教師の会「すみれサロン」（授業参観と会員懇親会）・中学校PTA学校訪問・中学校教員対象学校説明会で焼菓子やムース等提供した。また、教員向けに夕食として「松花堂弁当」「ミックスフライ定食」「全自家製ラーメン」をワンコインで提供した。

・ダンス同好会

すみれピックオープニングでダンス披露

8. スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）

- ・文部科学省が主催する平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（研究開発指定校）に生活デザイン科（人間総合科）・家庭科が応募すべく、その準備を行い申請したが採択されなかった。引き続き、平成31年度採択に向けて平成30年も準備を進めていく。

・主な内容

<研究のねらい>

- 1 滋賀県では、全職種に対しての保育士の充足率が約1/2倍と低く、保育士が絶対的に不足している。地域として安定した保育士を確保する必要がある、長年本学園が培ってきた保育の専門的職業人育成の伝統を生かし、知識、保育マインド、実践力すべてが揃った「保育マイスター」の育成を研究の主要テーマとした。
- 2 「地域での子育て」が難しくなっている現在、本研究を通じて相互扶助のできる場を提供し、高齢者をはじめあらゆる世代が子育てに関わる新たな取り組みを考えることにより、最新の保育と先人の知恵が融合された新時代の保育を切り開くことができる。こうした取り組みを通じて、生徒が自らのライフワークバランスを考え、自己実現を果たすことにもつなげていきたい。

<研究開発課題>

「未来を担う保育マイスターの育成」～すみれ子育てプロジェクト～

<研究概要>

本研究は、子育てや子どもをめぐる現代の様々な課題解決の一翼を担う、保育士基礎力を持った保育マイスターの育成を目的とする。そのために次の3本の柱を立てる。

- 1 保育に必要な知識の習得・・・保育に必要な知識を確実に習得し、その定着を図るために保育検定を実施する。また、グローバルに活躍できる人材の育成を目指し、各教科と連携しながら基礎学力を身につけるための授業カリキュラムを実践する。
- 2 保育に求められるマインドの育成・・・様々な保育実習により課題解決能力を育成する。また、ワークショップ「すみれカフェ」開設の企画・運営、保育園でのボランティア活動等を通じて、コミュニケーション能力や忍耐力・持久力を養い、保育マインドを育成する。
- 3 身につけた知識を発展させた保育の実践・・・企業と連携して現代の保育ニーズに合った新しい保育商品の開発をグループで取り組み、他者と協働する力を身につける。理論学習や実習で身につけた知識をもとに、保育者として実践する力を育成する。

＜具体的取組＞すみれカフェ 第1回親子体験教室「親子で作ろう 手形アートTシャツ教室」を開催した。教員とその子（4歳以下）を対象に体育館会議室を使用し、参加者25組で実施した。（7月15日午後）すみれカフェ高校生ワークショップ「おや子で作ろう手形アートTシャツ」を中心に、リズム体操や読み聞かせ・ツリー作りなどを織り交ぜクリスマスを楽しむプログラムとした。保育士志望の人間総合科生徒の学習活動の一環として取り組み、大津市子育て総合支援センターゆめっこ（大津市浜大津1丁目の明日都浜大津3階）で開催し、30組の参加があった。（12月19日・参加費500円）

9. その他

・ゴルフ 2年生吉本龍斗

河本文教福祉振興会奨励賞

第43回全日本シングルプレーヤーズ選手権・全日本大会（11月9日～10日）優勝

滋賀県高等学校ゴルフ選手権春季（5月26日）・秋季大会（10月28日）優勝

サマーゴルフジュニアクラシック決勝大会（9月8日～10日）優勝

タイガー魔法瓶 presents 石川遼カップジュニアゴルフチャンピオンシップ

決勝大会（2月24日～26日）準優勝

・税の作文

1年生大塚翔太 大津税務署長賞受賞

1年生才藤葉菜 大津租税教育推進協議会賞

・チア&ダンス 2年生杉崎葵

アメリカ合衆国カリフォルニア州のディズニーリゾートの大会「Diamond Dance Classic」に招待され WORLD WINGS（茨木市）の一員として参加（4月7日～9日）

・家庭科コンクール

全国きものデザインコンクール 出品

・宝塚歌劇デビュー

本校出身者 園田 雪乃（平成27年度末1年生修了転学）が芸名「菜乃葉 みと（なのは みと）」として、平成30年5月8日（火）15時からミュージカル「ANOTHER WORLD」の公園前に、104期生40名を代表として舞台口上を行うことになった。

<幼稚園>

1 平成30年度の園児募集の状況

- ・入園希望者 55人 (H29 69人・H28 85人・H27 64人・H26 71人)
- ・入園児数 50人 (3歳児48人・4歳児1人・5歳児1人)

2 教育指導状況

- ・建学の精神、文科省教育要領を踏まえて、平成29年度教育課程大綱の作成と実践
- ・全国幼児教育研究協会が新教育要領に対応した実践事例集を発行。協力園として実践例が掲載。
- ・「愉快に体力づくり」(13年次)研究実践
- ・英語の音を幼児期から聞くことの大切さに注目をし、年長クラスで毎日キッズ英語の実践
- ・預かり保育の実施 平成29年度実績 述べ 3,823人
(28年度実績 3,137人 27年度実績 3,604人 26年度実績 3,915人)
- ・第56回全日本学校歯科保健優良校表彰において、全国の幼稚園で唯一の文部科学大臣表彰を受賞(於:青森県)
- ・子育て支援事業として、2歳児以上対象「ようちえんであそぼう」1歳半以上対象「とんとんあつまっておいでよ」を年間8回実施

3 教員の資質向上と研修

- ・園内研修(安全管理、救急法、保護者対応等)を毎月2回程度、水曜日等に実施。
- ・夏季休業中は、全国幼児教育研究大会を初め各種の研修に積極的に参加。
- ・第1回幼児造形研究大会びわこ集会に続いての会場園として、教育の質の向上に努める。滋賀県下等より150名参加
- ・近藤教諭が第61回全国小学校体育科教育研究集会(豊橋)(幼少連携)で発表
小野園長が同集会で「ゲーム」領域の指導助言
- ・10月、特別支援教育において大垣女子短期大学幼児教育学科松村齊教授に来園いただき各クラスごとに指導助言を受ける。
- ・元幼児教育教科調査官小田豊先生を招聘しての短大主催「幼児教育アカデミー」に参加

4 滋賀短期大学幼児教育保育学科等の学生等受け入れ状況

- ・2回生の教育実習前期6月5日～9日、後期9月4日～15日の期間 11人
- ・「幼児体育」選択の学生 火曜日、金曜日に29人
- ・生活学科の学生による「カレーライス」「竹の子ご飯」「秋の実りご飯」「お楽しみ給食」の提供による交流(カレーライス、竹の子、秋の実は緑の広場による収穫。カレーライスづくりの時は年長児は短大調理実習室において皮むき、包丁の使い方の実技指導を受ける)
- ・スポーツ教室、チャレンジ教室、折り紙教室等の実施。
- ・短大附属高校の家庭科学習内容に伴う受け入れ。

5 施設設備の整備改善

- ・遊具点検修理 135千円 ・緑の広場等環境管理費 502千円
- ・折りたたみアルミ製ステージ 3,250千円

IV 平成29年度 決算概要説明

【学校法人会計基準について】

「学校法人会計基準」は、私学を取り巻く経営環境の変化等を受けて、公教育を担う学校法人の経営状態について、社会に対してよりわかりやすく説明できる仕組みを求めています。

こうした趣旨から改正された「学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成25年4月22日文科科学省令第15号）」が文部科学省より公布され、平成27年度以後の会計年度に係る会計処理及び計算書類の作成から適用されることになりました。

【学校法人会計の概要】

学校法人は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従い学校を運営し、その収入の多くは学生生徒等の納付金や国・地方公共団体からの補助金で構成されている極めて公共性の高い公益法人です。学校法人の使命は、教育研究活動をとおして有為の人材を育成し、研究成果を社会に還元することにあります。このように、学校法人は企業とは異なり、利益の獲得を目的としていないため、損益計算を目的としている企業の会計処理では、学校の経営状態を把握することは難しくなります。そこで、学校の経営状況を把握するため、私立学校振興助成法に定める「学校法人会計基準」に従い、会計処理を行っています。

【計算書類】

国または地方公共団体から補助金の交付を受ける学校法人は、「学校法人会計基準」に則って、会計処理を行い、計算書類を作成しなければなりません。計算書類として「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

◇資金収支計算書

・当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容、並びに当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにする計算書です。

◇活動区分資金収支計算書

・資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

◇事業活動収支計算書

・当該年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容、並びに基本金組入後の均衡の状態を明らかにし、経営状況を表します。

◇貸借対照表

・年度末における資産及び負債、純資産（基本金・繰越収支差額）の内容、在り高を明示し、学校法人としての財政状況（ストック）を明らかにします。

【学校法人会計と企業会計との違い】

一般企業は利益を追求することを目的としていることから、企業会計では、利益の源泉となる収益とそれに費やした費用を正しくとらえるために損益計算書に重点が置かれています。

それに対して学校法人は教育・研究活動を目的としていることから学校法人会計では、教育研究活動を遂行するための資金の収入と支出を明らかにする資金収支計算書が大きな役割を占めています。さらに事業活動の収支の均衡状態を示す事業活動収支計算書と資産・負債・正味財産の状態を表す貸借対照表の作成も定められています。

	学校法人会計	企業会計
事業の目的	教育研究活動	経済活動（利益追求）
会計処理ルール	学校法人会計基準	企業会計原則
計算書類	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表	キャッシュフロー計算書 損益計算書 貸借対照表
基本的財産	基本金（自己所有資産）	資本金（株主出資）
利害関係者	学費負担者、国、地公体等	株主、債権者、利害関係者等
利益処分	なし	あり（配当、社内留保金等）

【各計算書における勘定科目について】

○資金収支計算書、事業活動収支計算書の共通科目

学生生徒等納付金 （収入）	学生生徒から納入された授業料・入学金・施設費等の収入です。
手数料（収入）	入学検定料や証明書発行手数料等の収入です。
寄付金（収入）	金銭等の寄付金で、事業活動収支計算書では現物寄付金を含みます。
補助金（収入）	国や地方公共団体等から交付される助成金です。
付随事業・収益 事業収入	公開講座受講料や幼稚園の預かり保育料、通園バス料などの補助活動にかかる収入です。
受取利息・配当金 （収入）	預貯金・有価証券の運用から得た利息や配当金などの収入です。
雑収入	退職金財団からの交付金収入や上記に含まれない収入で、学校法人に帰属する収入です。
人件費（支出）	教職員等に支給する給与や所定福利費等です。
教育研究経費 （支出）	教育研究のために支出する経費です。
管理経費（支出）	総務・人事・経理業務や学生募集活動等、教育研究活動以外の活動に支出する経費です。
借入金等利息 （支出）	借入金に係る利息として支出する経費です。

○資金収支計算書のみみられる勘定科目

資産売却収入	土地・建物・有価証券等の固定資産の売却収入です。
前受金収入	翌年度以降の諸活動に対応する収入を当年度中に資金収入したもの。具体的には、翌年度入学生に係る「学生生徒納付金収入」などです。
その他の収入	前期末の未収入金に係る収入や預り金受入収入など各収入科目に含まれない収入です。
資金収入調整勘定	資金の収入が前年度または翌年度に行われる収入項目のことです。具体的には「期末未収入金」や「前期末前受金」等です。
借入金等返済支出	借入金に係る返済のため支出する経費です。
施設関係支出	諸活動に使用する目的で取得する土地・建物・構築物等固定資産のため支出する経費です。

設備関係支出	諸活動に使用する目的で取得する教育研究用機器備品・管理用機器備品・図書・車両・ソフトウェア等のため支出する経費です。
資産運用支出	学校法人の資産運用目的による支出です。
その他の支出	前期末の未払金支払支出など各支出科目に含まれない支出です。
資金支出調整勘定	資金の支出が前年度または翌年度に行われる支出項目のことで、具体的には「期末未払金」や「前期末前払金」等です。

○事業活動収支計算書のみみられる勘定科目

資産売却差額	資産売却収入が帳簿残高を超えた場合、その超過額をいいます。
その他の特別収入	臨時的な収入である施設設備関連の補助金、寄付金、現物寄付です。
基本金組入額	学校法人が諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために事業活動収入のうちから組入れた金額です。
資産処分差額	資産の帳簿残高が資産売却収入を超えた場合、その超過額をいいます。また売却以外で除去損や廃棄損も含まれます。
徴収不能額等	未収入金で、当期において回収不能と判断した額をいいます。

○貸借対照表のみみられる勘定科目

固定資産	貸借対照表日後1年を超えて使用する資産をいいます。
流動資産	現預金等貸借対照表日後1年以内に使用する資産をいいます。
固定負債	長期借入金等、返済の期限が1年を超えて到来する負債のことで、
流動負債	短期借入金等、返済の期限が1年以内に到来する負債のことで、
基本金	第1号基本金：学校法人が設立当初に取得した教育用の固定資産や新たな学校の設置・規模の拡大・教育の充実向上のために取得した固定資産の額をいいます。 第2号基本金：将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額をいいます。 第3号基本金：基金として継続的に保持し、かつ運用することでその果実を教育研究に使用する金銭その他の資産をいいます。 第4号基本金：恒常的に保持すべき資金の額をいいます。
繰越収支差額	過年度からの事業活動収支計算の結果、累積された当年度収支差額の収入または支出の超過額

1. 【資金収支計算書】

- ・収入及び支出の合計は、各々2,670,483千円となり、予算（補正予算）より112,745千円減少し、予算内の対応となった。以下、予算との差異が大きかった主な科目・金額は次のとおりである。

(収入の部)

- ・学生生徒等納付金収入は、予算編成における積算人数の差異及び授業料負担軽減額（就学支援金）の増額等により2,511千円の減少となった。
- ・手数料収入は、入学検定料が短期大学の受験者数の減少等により739千円減少した。
- ・補助金収入は、短期大学において国庫補助金の経常費補助金収入の減少により4,035千円減少となった。
- ・資産売却収入は、大津市梅林の校地の売却代金75,000千円を計上。
- ・受取利息・配当金収入は、予算編成時、市場の好転(高カーボン収入)を期待していたが、市場の調整局面等、期待通りのカーボン収入とならず3,211千円の減額となった。
- ・雑収入は、退職者の退職金財団交付金等の増加により5,543千円の増加となった。
- ・前受金収入は、平成30年度入学者数の積算数の差異により、授業料・入学金・施設設備資金の前受金が12,273千円減少となった。
- ・その他収入は、主に高等学校の校舎建替えに伴う減価償却引当資産の取崩収入差異等、61,836千円の減少となった。
- ・資金収入調整勘定（期末未収入金:39,794千円）は、法人本部におけるキャリアアップ助成金(2,565千円)や短期大学の施設整備補助金(21,707千円)及び退職者の退職金財団交付金(5,912千円)の未収入等、高等学校及び幼稚園における滋賀県からの設備整備補助金、振興補助金等の未収入分である。

(支出の部)

- ・人件費支出は、教職員の人員数の積算差異による1,208千円の減少である。
- ・教育研究経費支出は、全般的に減少。主に消耗品費、光熱水費、保全改修費、業務委託費等、いずれも予算編成における積算差異、計画予算の縮小、経費節減等により、33,259千円減少。特に短期大学における消耗品費の減少(▲4,617千円)、保全改修費の減少(▲8,934千円)、業務委託費の減少(▲2,453千円)。高等学校における業務委託費の減少(▲2,336千円)が大きい。
- ・管理経費支出は、計画予算の縮小や経費節減等、全般にわたり9,282千円削減できた。主に法人本部における100周年記念事業関係の消耗品費(▲1,328千円)・業務委託費(▲895千円)・広告宣伝費(▲1,102千円)支出の減少等によるものである。
- ・設備関係支出は、高等学校の教育研究用機器の3,335千円の減少、図書購入費の減少等により4,323千円の減少である。
- ・資産運用支出は、退職給与引当特定資産への繰入額による815千円の差異である。
- ・予備費は、高等学校施設関係の構築物として6,588千円を含む、8,804千円を支出した。
- ・翌年度繰越支払資金は、予算より52,429千円減少の570,980千円となった。

2. 【事業活動収支計算書】

- ・教育活動収支差額は、140,237千円の支出超過。予算よりは53,089千円改善となる。事業活動収入の部では、予算より寄付金4,686千円、雑収入4,801千円が増加。一方、学生生徒等納付金2,511千円、経常費等補助金3,264千円の減少等、収入計で3,311千円の増加となった。事業活動支出の部では、人件費5,567千円、教育研究経費34,581千円、管理経費9,630千円の減少となり、支出計で予算より49,778千円減少の1,779,347千円となった。
- ・教育活動外収支差額では、27,244千円となり、予算より3,212千円の減少となった。

収入の部では、予算より受取利息等で 3,212 千円減少の 28,395 千円、支出の部では、私学振興共済事業団への借入金利息の 1,151 千円である。

- ・よって、経常収支差額(教育活動及び教育活動外収支差額の合計)では、112,993 千円の支出超過となり、予算からは 49,877 千円の減少となった。
- ・特別収支差額では、48,605 千円の収入超過となり、予算より 1,110 千円の増加となった。
収入の部では、土地売却差額、施設設備寄付金や施設設備補助金による特別収入であり、収入計は予算より 1,632 千円の増加となり、106,968 千円となった。支出の部では、高等学校の建物・構築物・機器備品等の除却損による資産処分差額や退職給与引当金特別繰入等により支出計は 58,363 千円となった。
- ・よって、基本金組入前当年度収支差額は、予算より 55,863 千円の減少の 64,388 千円。基本金組入額合計 230,746 千円を組入れた結果、当年度収支差額は 295,134 千円となり、予算より 143,457 千円好転するものとなった。

◆◆◆ 主要財務比率の経年比較表 ◆◆◆

比 率	算式 (×100)	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算)	平成29年度 (決算)
人件費比率	人件費	69.2%	66.2%	61.0%	60.3%	60.2%
	帰属収入					
人件費依存率	人件費	107.6%	102.5%	97.0%	98.1%	96.1%
	学生生徒等納付金					
教育研究経費比率	教育研究経費	22.8%	23.2%	23.9%	24.3%	34.3%
	帰属収入					
管理経費比率	管理経費	5.4%	4.7%	4.7%	4.5%	5.7%
	帰属収入					
帰属収支比率 (事業活動収支比率)	消費支出	97.7%	94.7%	90.7%	91.0%	103.6%
	帰属収入					

◇◇◇ 新主要財務比率 ◇◇◇

比 率	算式 (×100)	平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算)	平成29年度 (決算)
経常収支差額比率	経常収入-経常支出	8.4%	9.5%	-6.8%
	経常収入			
人件費比率	人件費	62.3%	61.2%	64.1%
	経常収入			
教育活動資金収支 差額比率	教育活動資金収支差額	12.2%	13.0%	0.6%
	教育活動資金収入計			
積立率	運用資産	75.4%	78.1%	72.4%
	要積立額			

※教育活動資金収支差額＝教育活動資金収入計－教育活動資金支出計＋調整勘定等

※運用資産＝現預金＋特定資産＋有価証券

※要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金

【貸借対照表】

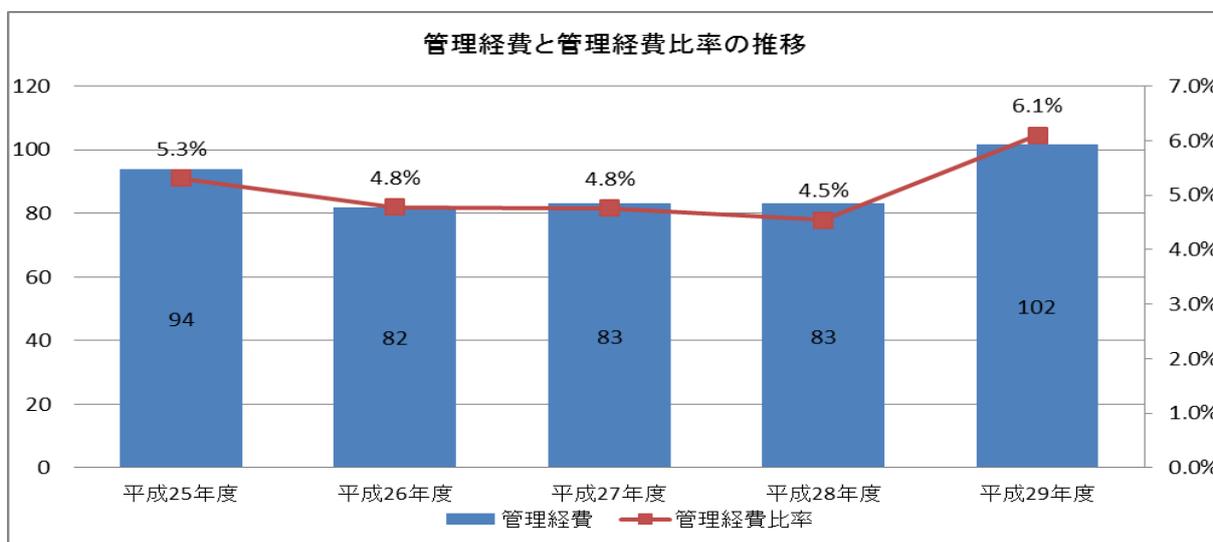
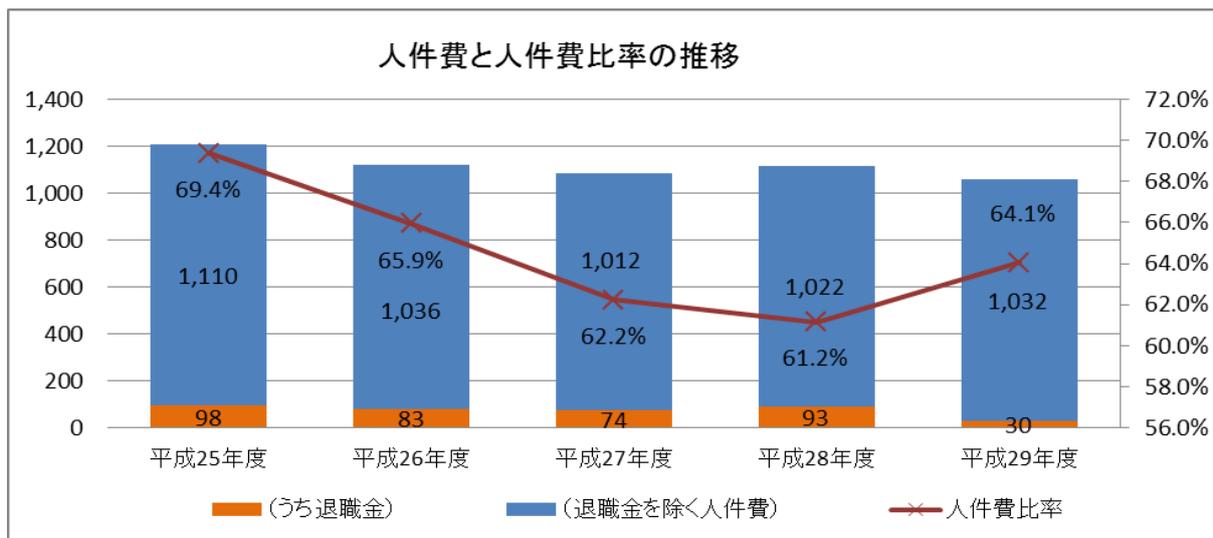
- ・資産の部合計は 5,296,973 千円で、前年度末より 110,770 千円 (▲2.09%) 減少した。
その主な要因は、「特定資産」の減価償却引当特定資産の取崩 131,683 千円及び第 3 号基本金引当特定資産の積増 2,422 千円、「有形固定資産」の「土地」大津市梅林校地の売却と高校「和心館」の取得により 3,318 千円減少。「建物」高校校舎建替えに伴う建物資産の取崩により 81,471

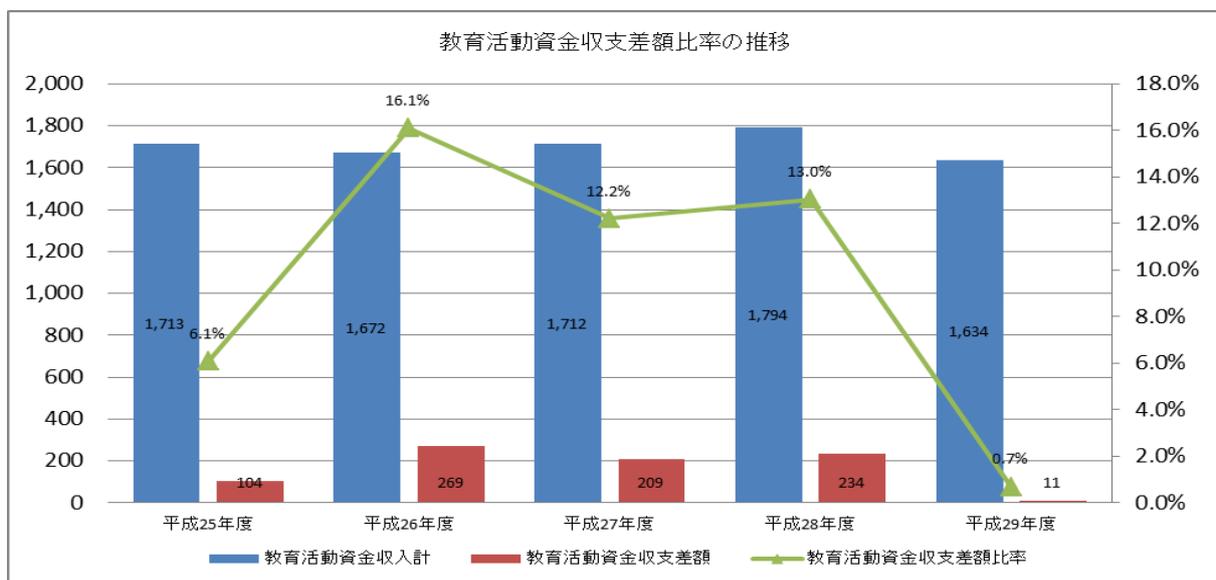
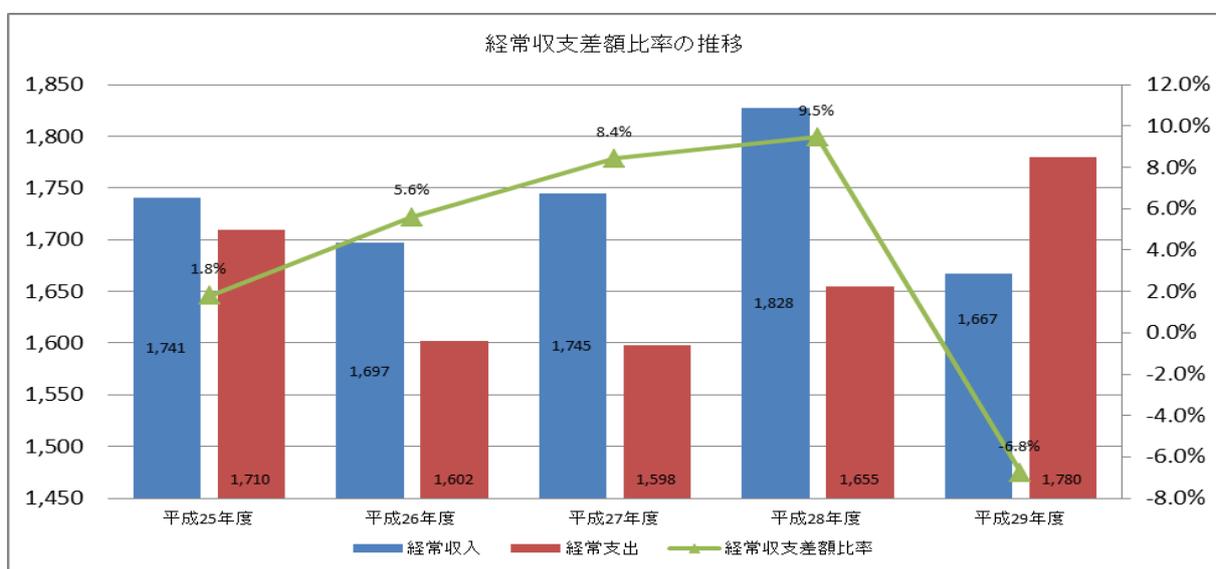
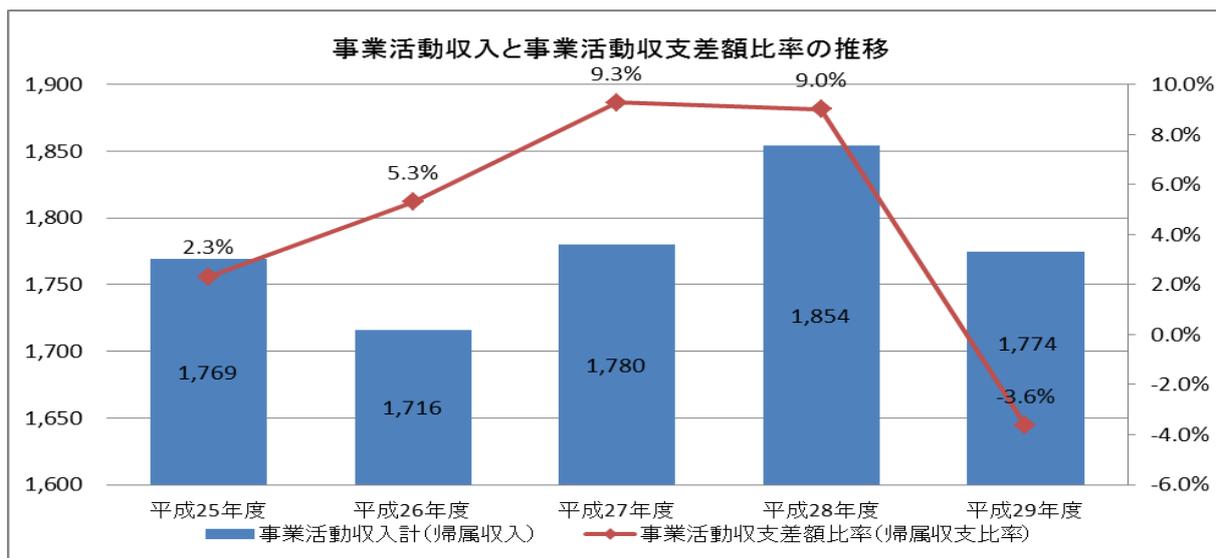
千円減少。「構築物」高校新校舎建築に伴う構築物 132,739 千円の増加。「流動資産」現金 預金と未収入金の減少等の結果によるものである。

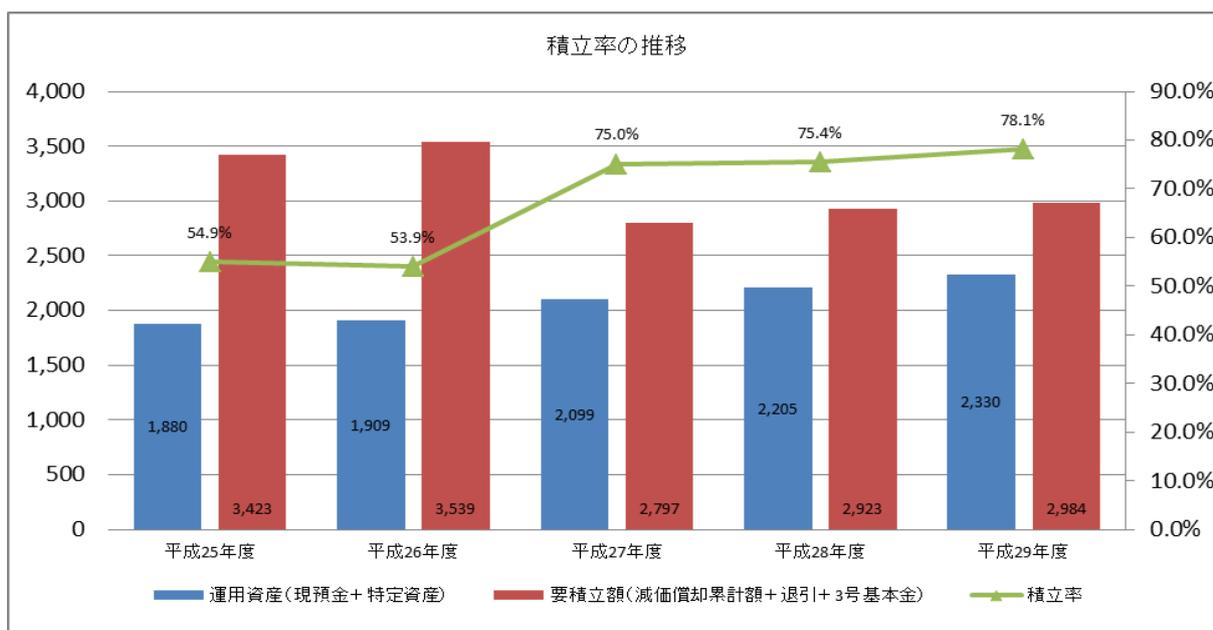
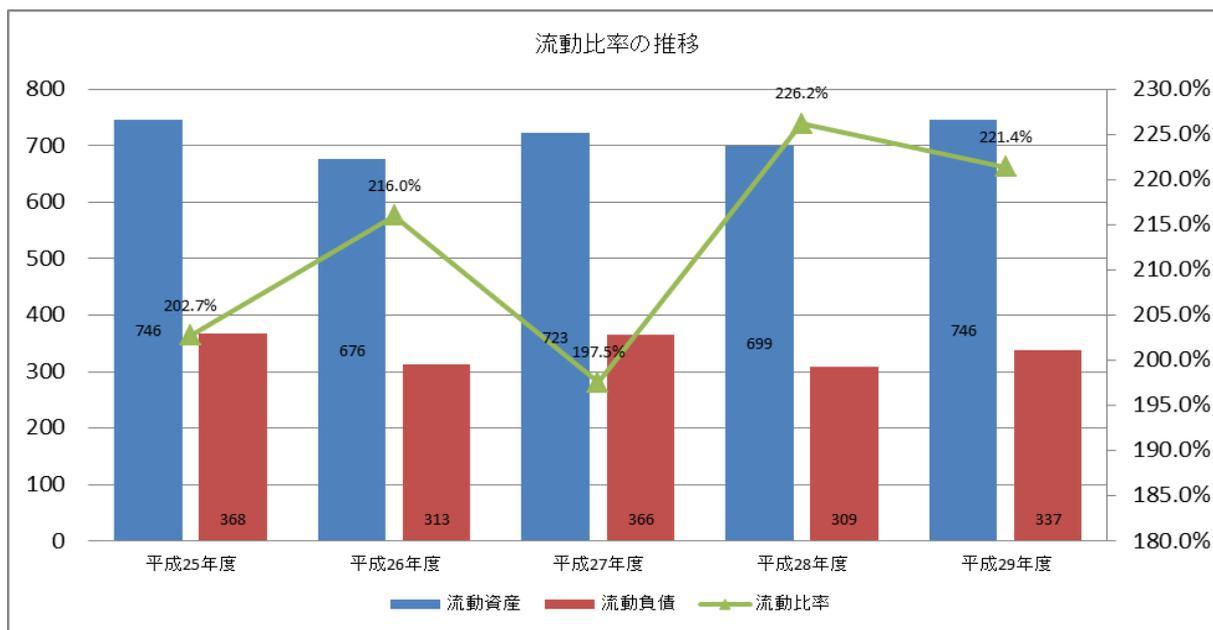
- ・負債の部合計は 625,319 千円で、前年度末より 46,382 千円減少した。
その主な要因は長期借入金の計画的返済による減少。未払金の増加、学生生徒等納金の前受金の 24,143 千円減少によるものである。
- ・純資産の部は 4,671,654 千円で、前年度末より 64,388 千円減少した。
その主な要因は、基本金 226,932 千円の組入を行ったことと、翌年度繰越収支差額が 291,320 千円の支出超過によるものである。

<参考>

比 率	算式 (×100)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		(決算)	(決算)	(決算)	(決算)	(決算)
流 動 比 率	流 動 資 産	215.9%	197.4%	225.7%	221.6%	214.4%
	流 動 負 債					







第1表				
資 金 収 支 計 算 書				
平成29年4月 1日から				
平成30年3月31日まで				
収入の部				(単位：千円)
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等納付金収入	1,114,065	1,111,554	2,511	
手数料収入	37,362	36,623	739	
寄付金収入	19,194	24,967	△	5,773
補助金収入	445,031	440,996	4,035	
国庫補助金収入	138,763	132,967	5,796	
地方公共団体補助金収入	306,268	308,029	△	1,761
資産売却収入	75,000	75,000	0	
付随事業・収益事業収入	6,071	6,409	△	338
受取利息・配当金収入	31,607	28,396	3,211	
雑収入	42,722	48,265	△	5,543
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	247,650	235,377	12,273	
その他の収入	480,858	419,022	61,836	
資金収入調整勘定	△ 312,604	△ 352,398	39,794	
前年度繰越支払資金	596,272	596,272	0	
収入の部合計	2,783,228	2,670,483	112,745	
支出の部				
科 目	予 算	決 算	差 異	
人件費支出	1,070,842	1,069,634	1,208	
教育研究経費支出	524,381	491,122	33,259	
管理経費支出	107,285	98,003	9,282	
借入金等利息支出	1,152	1,152	0	
借入金等返済支出	35,530	35,530	0	
施設関係支出	172,476	172,476	0	
設備関係支出	86,531	82,208	4,323	
資産運用支出	131,571	130,756	815	
その他の支出	52,921	52,922	△	1
〔予 備 費〕	1,196		1,196	
資金支出調整勘定	△ 24,066	△ 34,300	10,234	
翌年度繰越支払資金	623,409	570,980	52,429	
支出の部合計	2,783,228	2,670,483	112,745	
注：予備費10,000千円の内 8,804千円を使用した。				

第2表

資金収支内訳表

平成29年4月1日から

平成30年3月31日まで

収入の部

(単位 千円)

科目	部門	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
学生生徒等納付金収入		681,414	392,323	37,816
手数料収入		9,176	27,265	183
寄付金収入		2,098	5,504	0
補助金収入		126,618	269,341	45,037
国庫補助金収入		126,511	6,456	0
地方公共団体補助金収入		107	262,885	45,037
資産売却収入		0	0	0
付随事業・収益事業収入		302	0	6,107
受取利息・配当金収入		9,540	6,303	769
雑収入		13,294	31,877	512
借入金等収入		0	0	0
計		842,442	732,613	90,424

支出の部

(単位 千円)

科目	部門	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
人件費支出		496,323	456,765	80,113
教育研究経費支出		181,315	291,153	18,653
管理経費支出		64,004	19,438	975
借入金等利息支出		0	1,152	0
借入金等返済支出		0	35,530	0
施設関係支出		39,420	133,056	0
設備関係支出		18,146	60,202	3,860
計		799,208	997,296	103,601

第3表			
		活動区分資金収支計算書	
		平成29年4月 1日から 平成30年3月31日まで	
		(単位：千円)	
		科 目	
		金 額	
教育活動による資金収支	収 入	学生生徒等納付金収入	1,111,554
		手数料収入	36,623
		特別寄付金収入	22,570
		経常費等補助金収入	409,039
		付随事業収入	6,409
		雑収入	48,265
		教育活動資金収入計	1,634,460
	支 出	人件費支出	1,069,634
		教育研究経費支出	491,122
		管理経費支出	98,003
教育活動資金支出計		1,658,759	
	差 引	△ 24,299	
	調整勘定等	35,648	
	教育活動資金収支差額	11,349	
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収 入	施設設備寄付金収入	2,397
		施設設備補助金収入	31,957
		施設設備売却収入	75,000
		減価償却引当特定資産取崩収入	251,683
		施設整備等活動資金収入計	361,037
	支 出	施設関係支出	172,476
		設備関係支出	82,208
		減価償却引当特定資産繰入支出	120,000
		施設整備等活動資金支出計	374,684
	差 引	△ 13,647	
	調整勘定等	△ 12,302	
	施設整備等活動資金収支差額	△ 25,949	
		小計（教育活動収支差額＋施設整備等活動収支差額）	△ 14,600
その他の活動による資金収支	収 入	退職給与引当特定資産取崩収入	8,335
		預り金受入収入	21,579
		小計	29,914
		受取利息・配当金収入	28,396
		その他の活動資金収入計	58,310
	支 出	第3号基本金引当特定資産繰入支出	2,421
		借入金等返済支出	35,530
		退職給与引当特定資産繰入支出	8,335
		預り金支払支出	21,548
		小計	67,834
借入金等利息支出		1,152	
	その他の活動資金支出計	68,986	
	差 引	△ 10,676	
	調整勘定等	△ 15	
	その他の活動資金収支差額	△ 10,691	
		支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 25,291
		前年度繰越支払資金	596,272
		翌年度繰越支払資金	570,980

第4表				
事業活動収支計算書				
平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで				
(単位：千円)				
教育活動収入の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,114,065	1,111,554
	手数料	37,362	36,623	739
	寄附金	18,267	22,953	△ 4,686
	経常費等補助金	412,303	409,039	3,264
	付随事業収入	6,071	6,409	△ 338
	雑収入	47,731	52,532	△ 4,801
	教育活動収入計	1,635,799	1,639,110	△ 3,311
教育活動支出の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動支出の部	人件費	1,073,961	1,068,394
	内：退職給与引当	9,149	7,094	2,055
	教育研究経費	643,543	608,962	34,581
	内：減価償却	119,157	117,354	1,803
	管理経費	111,366	101,736	9,630
	内：減価償却	4,081	3,749	332
	徴収不能額等	0	255	△ 255
	教育活動支出計	1,828,870	1,779,347	49,523
	教育活動収支差額	△ 193,071	△ 140,237	△ 52,834
教育活動外収入の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動外収入の部	受取利息・配当金	31,607	28,395
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	31,607	28,395	3,212
教育活動外支出の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動外支出の部	借入金等利息	1,152	1,152
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	1,152	1,152	0
	教育活動外収支差額	30,455	27,243	3,212
	経常収支差額	△ 162,616	△ 112,994	△ 49,622
特別収入の部	科目	予算	決算	差異
	収入の部	資産売却差額	71,681	71,681
	その他の特別収入	33,655	35,287	△ 1,632
	特別収入計	105,336	106,968	△ 1,632
特別支出の部	科目	予算	決算	差異
	支出の部	資産処分差額	41,541	42,063
	その他の特別支出	16,300	16,300	0
	特別支出計	57,841	58,363	△ 522
	特別収支差額	47,495	48,605	△ 1,110
	〔予備費〕	4,876		4,876
	基本金組入前当年度収支差額	△ 119,997	△ 64,389	△ 55,608
	基本金組入額合計	△ 318,340	△ 230,746	△ 87,594
	当年度収支差額	△ 438,337	△ 295,135	△ 143,202
	前年度繰越収支差額	△ 1,137,577	△ 1,050,216	△ 87,361
	基本金取崩額	153,125	3,814	149,311
	翌年度繰越収支差額	△ 1,422,789	△ 1,341,537	△ 81,252
	(参考)			
	事業活動収入計	1,772,742	1,774,473	△ 1,731
	事業活動支出計	1,892,739	1,838,862	53,877

注：予備費5,000千円の内124千円を使用した。

第5表						
事業活動収支内訳表						
平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで						
(単位：千円)						
科目		部門	学校法人	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
教育活動	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	0	681,414	392,323	37,817
		手数料	0	9,175	27,265	183
		寄付金	17,365	1,449	4,139	0
		経常費等補助金	0	101,617	262,385	45,037
		国庫補助金	0	101,510	0	0
		地方公共団体補助金	0	107	262,385	45,037
		付随事業収入	0	302	0	6,106
		雑収入	3,333	16,809	31,877	512
		教育活動収入計	20,698	810,766	717,989	89,655
	事業活動支出の部	人件費	36,434	493,036	458,459	80,464
		内退職給与引当金繰入額	0	6,878	22,827	0
		教育研究経費	0	243,108	341,489	24,366
		内減価償却額	0	61,414	50,226	5,713
		管理経費	13,796	66,708	20,257	974
		内減価償却額	207	2,704	838	0
		徴収不能額等	0	255	0	0
	教育活動支出計	50,230	803,107	820,205	105,804	
	教育活動収支差額		△ 29,532	7,659	△ 102,216	△ 16,149
科目		部門	学校法人	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
教育活動外収支	収入の活動の部	受取利息・配当金	11,784	9,540	6,303	769
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	11,784	9,540	6,303	769
	支出の活動の部	借入金等利息	0	0	1,152	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	1,152	0
教育活動外収支差額		11,784	9,540	5,151	769	
経常収支差額		△ 17,748	17,199	△ 97,065	△ 15,380	
特別収支	収入の活動の部	資産売却差額	71,681	0	0	0
		その他の特別収入	0	26,781	8,405	100
		特別収入計	71,681	26,781	8,405	100
	支出の活動の部	資産処分差額	0	1,340	40,722	0
		その他の特別支出	0	16,300	0	0
		特別支出計	0	17,640	40,722	0
特別収支差額		71,681	9,141	△ 32,317	100	
基本金組入前当年度収支差額		53,933	26,340	△ 129,382	△ 15,280	
基本金組入額合計		0	△ 47,001	△ 179,905	△ 3,840	
当年度収支差額		53,933	△ 20,661	△ 309,287	△ 19,120	
(参考)						
事業活動収入計		104,163	847,087	732,697	90,524	
事業活動支出計		50,230	820,747	862,079	105,804	

第6表

貸借対照表

平成30年3月31日

(単位 千円)

資 産 の 部				
科	目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産		4,621,754	4,661,883	△ 40,129
有形固定資産		3,016,227	2,927,095	89,132
特定資産		1,604,780	1,734,041	△ 129,261
その他の固定資産		747	747	0
流動資産		675,219	745,860	△ 70,641
資産の部合計		5,296,973	5,407,743	△ 110,770
負 債 の 部				
科	目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債		310,448	335,185	△ 24,737
流動負債		314,871	336,516	△ 21,645
負債の部合計		625,319	671,701	△ 46,382
純 資 産 の 部				
科	目	本年度末	前年度末	増 減
基本金		6,013,190	5,786,258	226,932
第1号基本金		5,529,807	5,305,297	224,510
第3号基本金		368,383	365,961	2,422
第4号基本金		115,000	115,000	0
繰越収支差額		△ 1,341,536	△ 1,050,216	△ 291,320
純資産の部合計		4,671,654	4,736,042	△ 64,388
負債及び純資産の部合計		5,296,973	5,407,743	△ 110,770

第7表						
財 産 目 録						
平成30年3月31日						
I	資産総額				5,296,972	千円
	内 基本財産				3,012,910	千円
	運用財産				2,284,062	千円
II	負債総額				625,319	千円
III	正味財産				4,671,653	千円
区 分		金 額				
資 産 額						
1	基本財産				3,012,910	千円
	土地	44,892	m ²		369,348	千円
	建物	26,334	m ²		1,864,435	千円
	図書	106,914	冊		281,557	千円
	教具・校具・備品	6,099	点		321,456	千円
	その他	178	点		176,114	千円
2	運用財産				2,284,062	千円
	現金預金				570,980	千円
	積立金				1,604,780	千円
	その他				108,302	千円
資産総額					5,296,972	千円
負 債 額						
1	固定負債				310,448	千円
	長期借入金				27,740	千円
	その他				282,708	千円
2	流動負債				314,871	千円
	短期借入金				35,530	千円
	その他				279,341	千円
負債総額					625,319	千円
正味財産 (資産総額 - 負債総額)					4,671,653	千円

V 監査報告書

・学園監事監査報告書

平成30年5月24日

監査報告書

学校法人 純美禮学園

理事会 御中

評議員会 御中

学校法人 純美禮学園

監事

東 清信東

監事

山中 隆 

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人純美禮学園寄附行為第14条の規定に基づき、学校法人純美禮学園の平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の学校法人の業務の状況及び財産の状況について監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法の概要

理事会に出席し、理事、法人本部事務局等から業務の執行状況を聴取するとともに関係資料を閲覧し、業務及び財産の状況を監査しました。また、公認会計士山本智三氏並びに香本明彦氏の両人から監査状況の報告を受けるとともにそれらを参考として計算書類等に検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (2) 学校法人の財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書は、法令及び寄附行為に従い正しく示しているものと認めます。

以上

・公認会計士監査報告書

独立監査人の監査報告書

平成 30 年 6 月 7 日

学校法人 純美禮学園
理事会 御中

公認会計士山本智三事務所

公認会計士

山本智三



公認会計士香本明彦事務所

公認会計士

香本明彦



私たちは、私立学校振興助成法第 14 条第 3 項の規定に基づく監査報告を行うため、平成 27 年 3 月 30 日付け文部科学省告示第 73 号に基づき、学校法人純美禮学園の平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む。）、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

計算書類に対する理事者の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第 18 号）に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正または誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正または誤謬による計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちはリスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私たちは、上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第 18 号）に準拠して、学校法人純美禮学園の平成 30 年 3 月 31 日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

学校法人と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

<参考資料>

◆「学生・生徒・園児数」<平成30年5月1日現在>

◇滋賀短期大学

学 科 \ 年 次	1	2	計
生 活 学 科	57	66	123
幼児教育保育学科	129	148	277
ビジネスコミュニケーション学科	107	85	192
計	293	299	592

◇滋賀短期大学附属高等学校

科 \ 学 年	1	2	3	計
普 通 科	218	179	178	575
生活デザイン (人間総合科)	48	49	44	141
計	266	228	222	716

注：平成30年4月1日から人間総合科は生活デザイン科に名称変更

◇滋賀短期大学附属幼稚園

	3歳児	4歳児	5歳児	計
園 児 数	48	43	64	155